

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

農薬抄録

アセタミプリド

(殺虫剤)

(作成年月日)

(改訂年月日)

(改訂年月日)

(改訂年月日)

(改訂年月日)

(改訂年月日)

(改訂年月日)

(改訂年月日)

(作成会社名) 日本曹達株式会社

(作成責任者・所属) 農業化学品事業部 登録部

連絡先	(社名)	(担当部署)	(担当者氏名)	(Tel)
	日本曹達株式会社	登録部		(FAX)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

目 次

I.	開発の経緯	開発-1
II.	物理的・化学的性状	物化性-1
III.	生物活性	活性-1
IV.	適用及び使用上の注意	適用-1
V.	残留性及び環境中予測濃度算定関係	
	作物残留試験	残留-1
	乳汁試験	残留-91-12
	家畜代謝試験	残留-92
	家畜残留試験	残留-102
	土壌残留試験	残留-112
	後作物残留試験	残留-118
	水質汚濁性試験	残留-118
VI.	有用動植物等に及ぼす影響	有用-1
VII.	使用時安全上の注意、解毒法等	使用時-1
VIII.	毒性	
	毒性一覧表	毒性一覧-1
	1. 原体	
	急性毒性	毒A-1
	皮膚及び眼に対する刺激性	毒A-9
	皮膚感作性	毒A-11
	急性神経毒性	毒A-17
	急性遅発性神経毒性	毒A-22
	90日間反復経口投与毒性	毒A-28

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

21 日間反復経皮投与毒性	毒A-44
90 日間反復吸入毒性	毒A-48
反復経口投与神経毒性	毒A-49
28 日間反復投与遅発性神経毒性	毒A-52
1 年間反復経口投与毒性及び発がん性	毒A-53
繁殖毒性、発達神経毒性及び催奇形性	毒A-87
変異原性	毒A-131
生体機能影響	毒A-151
その他	毒A-159
2. 原体混在物及び代謝物	
急性毒性	毒B-1
90 日間反復経口投与毒性	毒B-16
変異原性	毒B-25
3. 製剤	
水溶剤	
急性毒性	毒C-1
皮膚及び眼に対する刺激性	毒C-8
皮膚感作性	毒C-11
粒剤	
急性毒性	毒C-13
皮膚及び眼に対する刺激性	毒C-16
皮膚感作性	毒C-19
液剤	
急性毒性	毒C-21

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

皮膚及び眼に対する刺激性	毒C-26
皮膚感作性	毒C-31
くん煙剤	
急性毒性	毒C-33
皮膚及び眼に対する刺激性	毒C-37
皮膚感作性	毒C-40
IX. 動植物及び土壌等における代謝分解	代-1
[附] アセタミプリドの開発年表	年表-1

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

I. 開発の経緯

本剤は1989年に日本曹達㈱が発明し、開発した初期のネオニコチノイド系殺虫剤である。

農作物を加害する害虫類は多種にわたり、なかでも十字花科作物を加害するコナガ、果樹、野菜等に寄生するアブラムシ類は年間世代数も多く、薬剤抵抗性が発達し易いという点で防除関係者にとって最も頭を悩ませる害虫種であった。また、タバココナジラミ、ミナミキイロアザミウマなどは、既存殺虫剤に対する感受性も低く、防除対策に苦慮している状況であった。

これら害虫類に対しては、有効な新剤の開発が強く望まれており、当社もこのような要望に応えるべく精力的に新規殺虫剤の探索研究を行って来た。

当社の小田原研究所において、新しい作用機作を持つ化合物を探索するなかで、ニトロメチレン骨格を有する化合物群が興味深い殺虫活性を示す*ことに注目し、種々合成展開を行った。その結果、クロロピリジルメチル基を導入した化合物群が、高い殺虫活性および浸透性を有することを見出した。その後幅広い殺虫スペクトラムを持つ化合物を見出すべく、特にチョウ害虫に対する高活性を目標にして大規模な合成展開、殺虫活性試験および圃場評価試験を行ない、合わせて安全性の検討も進め本剤を選抜するに至った。1992年より日本植物防疫協会を通じ、供試番号 NI-25 (一般名:アセタミプリド) 20%水溶剤、2%粒剤として果樹、園芸分野の殺虫剤としての開発試験を開始した。その結果、水溶剤では、十字花科作物のコナガ、アブラムシ類、果菜類のミナミキイロアザミウマ、アブラムシ類、タバココナジラミなど、果樹ではシンクイムシ類、ハモグリガ類、コナカイガラムシ類、アザミウマ類などといった幅広い害虫種に優れた効力が認められた。

また本剤は根部より茎葉部へ強い浸透移行性を有するので、茎葉散布のみならず粒剤での土壌処理でも地上部の害虫を防除することができる。各種圃場試験の結果、十字花科作物のコナガ、アオムシ、アブラムシ類、果菜類のアブラムシ類、ミナミキイロアザミウマなどに定植時の植穴(または株元)処理で、長期の防除効果が認められた。

さらに、並行して行われた長期毒性試験を始めとする各種安全性試験、動植物代謝研究、残留試験などにより安全性も確認され、本剤の実用性が評価されるに至った。平成6年11月10日付けでモスピラン水溶剤(アセタミプリド(20%)水溶剤)及びモスピラン粒剤(アセタミプリド(2%)粒剤)の新規登録申請を行い、残留農薬安全性評価委員会においてADI(0.066 mg/kg/day)が設定され、平成7年11月28日に登録が認可された(モスピラン水溶剤:第19112号 モスピラン粒剤:第19114号)。それに続き、平成5年の食品衛生調査会毒性残留農薬合同部会において残留基準値が設定された。

その後、くん煙剤であるモスピランジェット(アセタミプリド(15%)くん煙剤)の登録を平成8年9月10日(第19326号)に、スプレー剤であるモスピランスプレー(アセタミプリド(0.0050%)液剤)を平成9年10月21日(第19742号)に、液剤であるモスピラン液剤(アセタミプリド(2%)液剤)を平成10年12月11日(第20102号)に、かんきつ等を対象にしたモスピランSL液剤(アセタミプリド(18%)液剤)を平成13年04月27日(第20641号)に登録取得した。非食用としては芝を対象としたイールダーSG(アセタミプリド(30%)水溶剤)を平成10年4月8日(第19939号)に、マツを対象にしたマツグリーン液剤(アセタミプリド(20%)液剤)の登録を平成12年2月8日(第20330号)に、マツグリーン液剤2(アセタミプリド(2%)液剤)を平成14年5月17日(第

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

20838号) に取得した。混合剤では花き類を対象としたモスピラン・トップジンMエアゾール (アセタミプリド (0.01%)・チオファネートメチル (0.15%) エアゾル) を平成12年5月15日 (第20386号) に、花き類・観葉植物及び野菜を対象としたモスピラン・トップジンMスプレー (アセタミプリド (0.005%)・チオファネートメチル (0.04%) 液剤) を平成16年8月4日 (第21309号) に登録取得した。

なお、1993年よりヨーロッパを中心として海外開発を開始し、1996年に東欧諸国で登録され、2005年にEUで有効成分登録 (Annex I掲載) された。

現在、以下の各国において登録されている。

北米：計 2 ヶ国

アメリカ、カナダ

中北南米：計 22 ヶ国

メキシコ、ペルー、キューバ、ガテマラ、チリ、コロンビア、ホンジュラス、ベリーズ、
コスタリカ、エクアドル、パナマ、アルゼンチン、ドミニカ共和国、エルサルバドル、
ブラジル、ジャマイカ、ボリビア、ニカラグア、ベネズエラ、パラグアイ、ウルグアイ、
トリニダードトバゴ

アジア・オセアニア：計 26 ヶ国

韓国、中国、台湾、タイ、マレーシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマー、
インドネシア、パキスタン、スリランカ、トルコ、レバノン、UAE、
オマーン、ヨルダン、サウジアラビア、イスラエル、イエメン、イラク、イラン、
インド、カタール、クウェート、パプアニューギニア、オーストラリア

旧ソビエト：計 7 ヶ国

ロシア、ウクライナ、ウズベキスタン、カザフスタン、ベラルーシ、アゼルバイジャン、キルギスタン

ヨーロッパ：計 30 ヶ国

ギリシャ、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、ブルガリア、チェコ、スロバキア、マケドニア、
モルダビア、アルバニア、マルタ、セルビア、モンテネグロ、ボスニアヘルツェゴビナ、
スイス、クロアチア、スロベニア、キプロス、イタリア、フランス、スペイン、スウェーデン、
ポルトガル、ベルギー、オランダ、オーストリア、イギリス、ドイツ、リトアニア、ラトビア

アフリカ：計 29 ヶ国

モロッコ、チェニジア、マダガスカル、南アフリカ、コートジボアール、マリ、モザンビーク、
モーリシャス、エジプト、ケニア、タンザニア、ブルンジ、ジンバブエ、アルジェリア、

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

カメルーン、ナイジェリア、スーダン、ガーナ、ザンビア、ウガンダ、チャド、ベニン、ブルキナファソ、カーボヴェルデ、ギニア、ニジェール、セネガル、トーゴ、ガンビア

(* Soloway et al., Advances in Pesticide Science, Part 2 p.206-217 (1978))

アセタミプリドの慢性参照用量は、平成 20 年 6 月 3 日の食品安全委員会農薬専門調査会幹事会において、ラット 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の NOAEL から、7.1 mg/kg/day と判断され、同時に安全係数は 100 とされた。また、JMPR、EPA および EU においても、食品安全委員会と同様に、ラット 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の NOAEL (7.1 mg/kg/day) および安全係数 (100) を基に、0.07 mg/kg/day (または 0.071 mg/kg/kg) が本剤の慢性参照用量として設定されている。

日本、JMPR、EPA 及び EU における ADI 設定根拠

ADI (mg/kg bw/day)	試験	NOAEL (mg/kg bw/day)	安全係数
0.071	2 年間慢性毒性/発がん性 (ラット)	7.1	100

一方、アセタミプリドの単回経口投与等により生じる可能性のある毒性影響に対する無毒性量の最小値は、ラットの急性神経毒性試験で得られた 10 mg/kg であったことから、これを安全係数 100 で除した 0.1 mg/kg を急性参照用量 (ARfD) とすることが妥当と考えられた。なお、平成 20 年 6 月 3 日の食品安全委員会農薬専門調査会幹事会において、この急性参照用量 (0.1 mg/kg) が参考情報として提示されている。また、JMPR、EPA および EU においても、食品安全委員会と同様に、ラットの急性神経毒性試験の結果を基に、0.1 mg/kg が本剤の急性参照用量として設定されている。

日本、JMPR、EPA 及び EU における ARfD 設定根拠

ARfD (mg/kg bw)	試験	NOAEL (mg/kg bw)	安全係数
0.1	急性神経毒性 (ラット)	10	100

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

II. 物理的・化学的性状

1. 有効成分の名称及び化学構造

1) 一般名

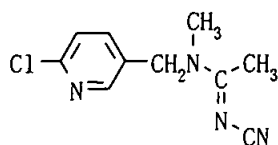
	和名	英名
一般名(ISO)	アセタミプリド	acetamiprid

- 2) 別名 商品名:モスピラン® MOSPILAN®
 試験名:NI-25
 コードNo.:31-1359

3) 化学名

	和名	英名
化学名 (IUPAC)	(E)-N ¹ -[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N ² -シアノ-N ¹ -メチルアセタミジン	(E)-N ¹ -[(6-chloro-3-pyridyl)methyl]-N ² -cyano-N ¹ -methylacetamidine
化学名 (CAS)	(E)-N-[(6-クロロ-3-ピリジン-2-イル)メチル]-N'-シアノ-N-メチルエタンイミダミド	(E)-N-[(6-chloro-3-pyridinyl)methyl]-N'-cyano-N-methylethanimidamide

4) 構造式



5) 分子式: C₁₀H₁₁ClN₄

6) 分子量: 222.68

7) CAS NO.: 135410-20-7

2. 有効成分の物理的・化学的性状

項目	測定値(測定条件)	測定方法/試験機関/報告年
外観・臭気	白色固体(結晶状微粉末) (25°C/蛍光灯下) 特異な臭気無し(室温/18.5°C)	目視法・官能法/日本曹達(株)高岡工場 生産技術研究所/1997年(GLP対応)
密度(*比重)	* 1.330g/cm ³ (20/20°C)	比重びん法/日本曹達(株)高岡 工場生産技術研究所/1997年 (GLP対応)
融点	98.9 °C	キャピラリー法(OECD 102) /日本曹達(株)高岡工場生産技術研究所 /1997年(GLP対応)
沸点	測定不能	-
蒸気圧	< 1.0 × 10 ⁻⁶ Pa(25°C) 1.73 × 10 ⁻⁷ Pa(50°C)	気体流動法(OECD 104)/(株)日曹分析 センター/1997年(GLP対応)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

項目		測定値(測定条件)		測定方法/試験機関/報告年	
溶解度	水	4.25	g/L (25°C/蒸留水)	フラスコ法(OECD 105)/榊日曹分析センター/1997年 (GLP 対応)	
		3.48	g/L (pH 5)		
		2.95	g/L (pH 7)		
		3.96	g/L (pH 9)		
	有機溶媒	ヘキサン(n-ヘキサン)	6.54	mg/L (25°C)	フラスコ法/榊日曹分析センター/1997年 (GLP 対応)
		キシレン	40.1	g/L (25°C)	
		ベンゼン	24.4	g/L (25°C)	
		ジクロロメタン	> 200	g/L (25°C)	
		クロロホルム	> 200	g/L (25°C)	
		アセトン	> 200	g/L (25°C)	
		メタノール	> 200	g/L (25°C)	
		エタノール	> 200	g/L (25°C)	
		アセトニトリル	> 200	g/L (25°C)	
テトラヒドロフラン		> 200	g/L (25°C)		
二硫化炭素	0.507	g/L (25°C)			
	酢酸エチル	37.8	g/L (20°C)	フラスコ法(12 農産第 8147 号)/榊日曹分析センター/2001年 (GLP 対応)	
解離定数 (pKa)		0.7 (25°C)		分光光度法(OECD 112)/榊日曹分析センター/1997年 (GLP 対応)	
n-オクタノール/水分配係数 (log Pow)		Pow : 6.27 (25°C) log P : 0.80 (25°C)		フラスコ振とう法/OECD 107 /榊日曹分析センター/1997年 (GLP 対応)	
生物濃縮性		log P が小さい為未実施		—	
土壌吸着係数			Koc' K	OECD 106/榊日曹分析センター/1994年 (GLP 対応)	
	福島	267	2.87		
	牛久	212	7.65		
	愛知	203	1.53		
	宮崎	123	1.83		
加水分解性	pH	t 1/2(°C)		OECD 111/榊日曹分析センター/1997年 (GLP 対応)	
	4.0	22,35,45°Cで 35 日間安定			
	5.1	22,35,45°Cで 35 日間安定			
	7.2	22,35,45°Cで 35 日間安定			
	9.1	812 日 (22°C) 52.9 日 (35°C) 13.0 日 (45°C)			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

項 目		測定値(測定条件)		測定方法/試験機関/報告年
水中光 分解性		推定半減期		農林水産省暫定指針「農薬の成分物質等の水中での光分解性試験」/㈱日曹分析センター/1994年(GLP非対応)
		射光区	対照区	
	蒸留水(滅菌水)	68.0日	30日間安定	
	自然水	20.1日	22.2日	
	光強度:800 W/m ² 、測定範囲:300~800nm (25℃/キセノンランプ連続照射)			
安定性	対熱	150℃以下では安定 約200℃以上で分解		OECD 113/㈱日曹分析センター/1999年(GLP対応)
	その他			
スペクトル* *詳細別記		UV/VIS, IR, NMR, MS		日本曹達(株)高岡工場生産技術研究所/1997年(GLP対応)

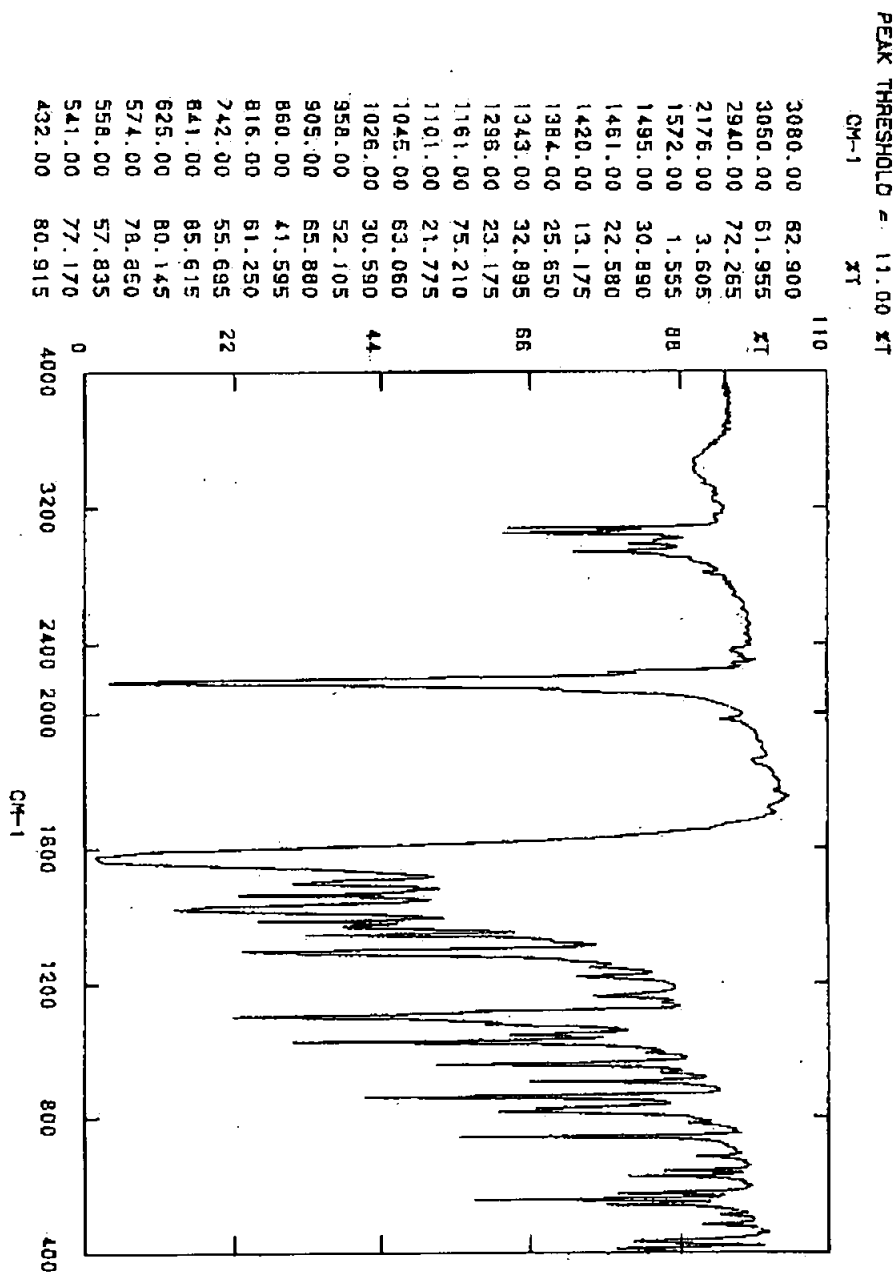
本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

*各種スペクトル:

① FT-IR (フーリエ変換赤外分光分析計)

2176cm⁻¹: -CN(nitrile)

CN(伸縮振動)



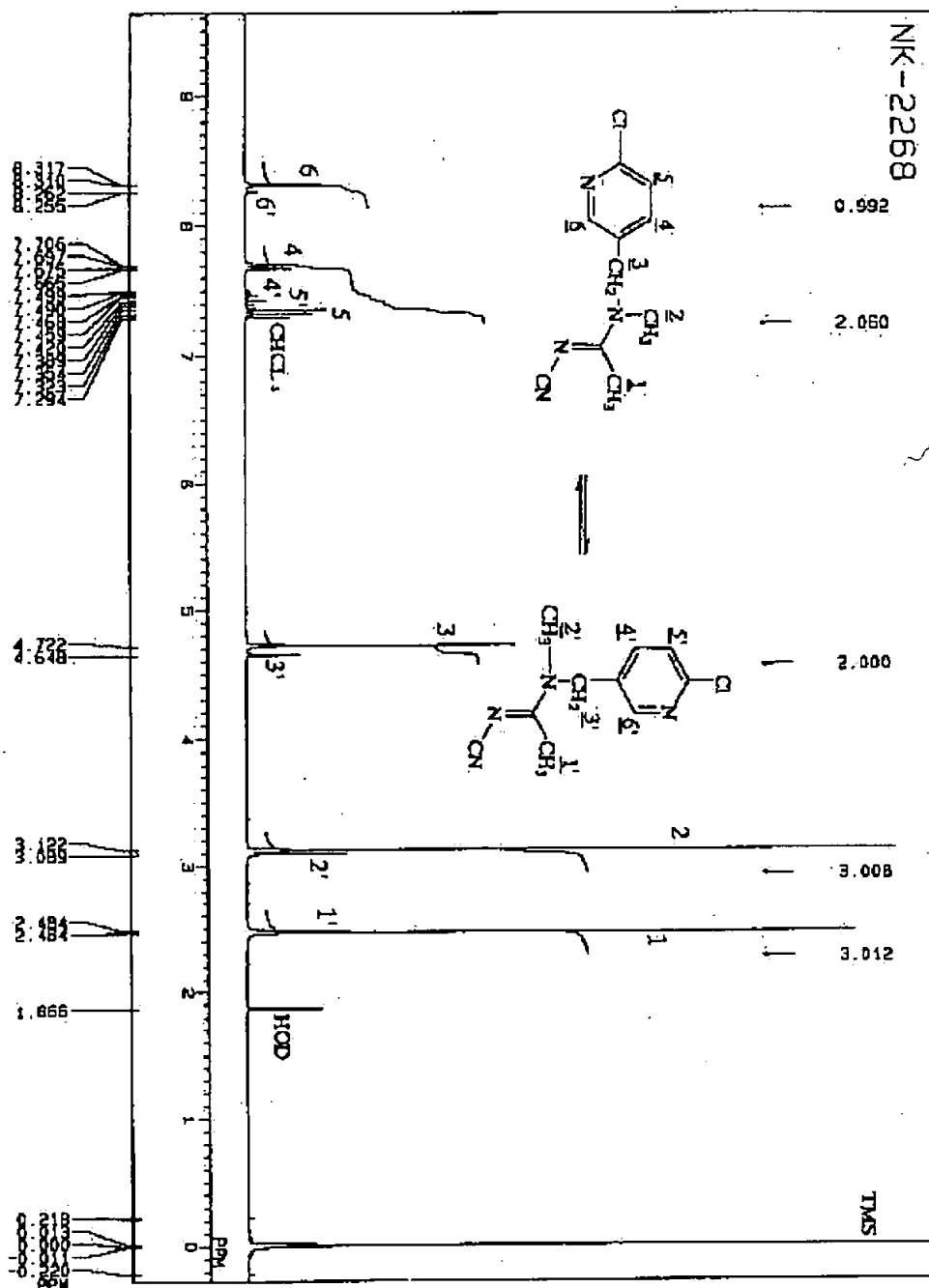
Apparatus : 1725X (PERKIN ELMER)

Sample : NI-25 (Lot No. NK-2268) KBr Tablet Method

FT-IR スペクトル

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

②FT-NMR (フーリエ変換核磁気共鳴装置)

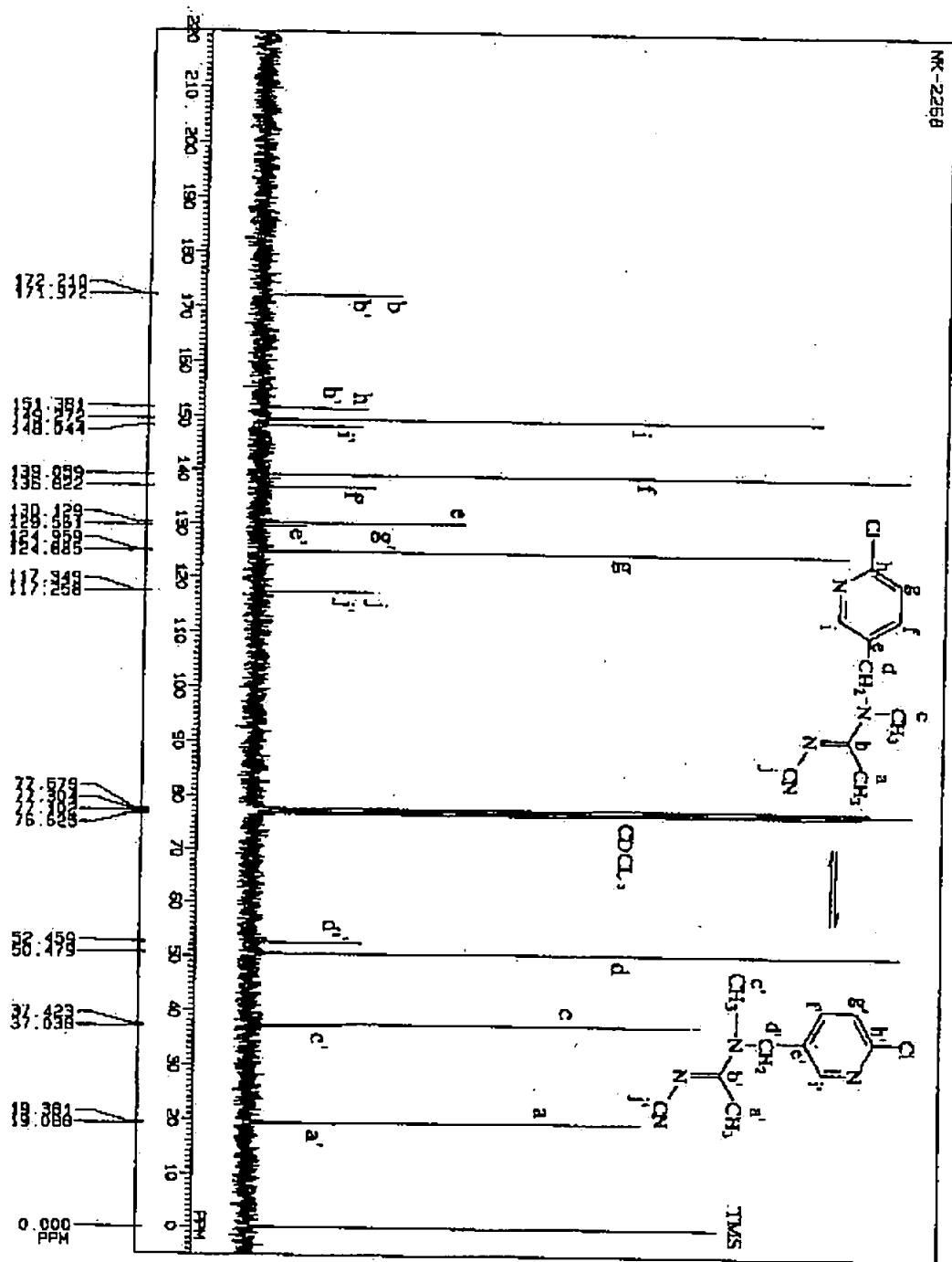


Apparatus : GSX270 (JEOL)

Sample : NI-25 (Lot No. NK-2268) 5% in CDCl₃

¹H-NMR スペクトル

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。



Apparatus : GSX270 (JEOL)

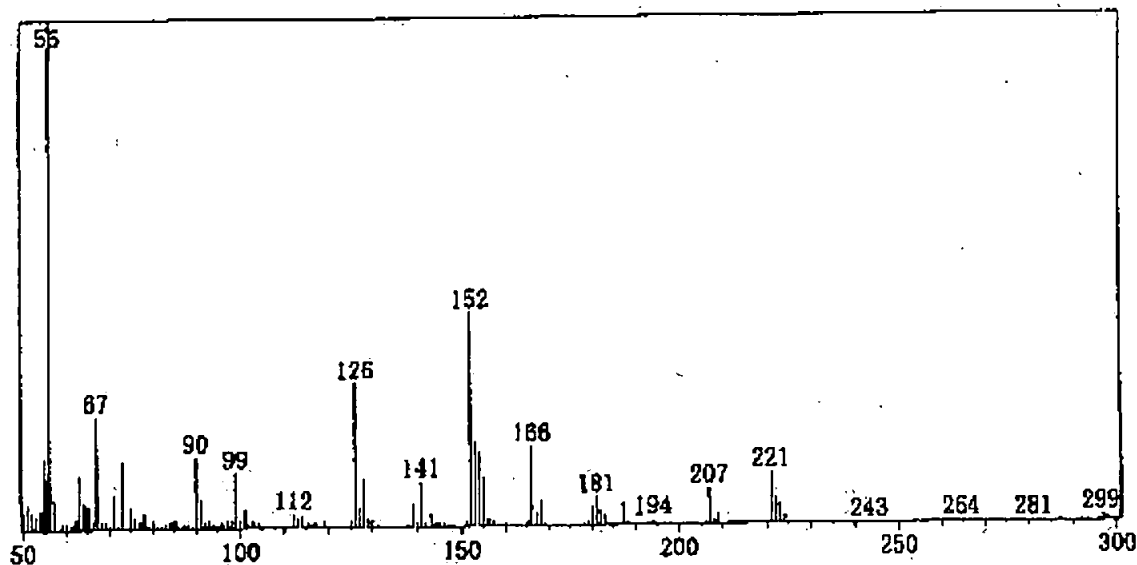
Sample : NI-25 (Lot No. NK-2269) 5% in CDCl₃

¹³C-NMR スペクトル

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

③MS (質量スペクトル)

【直接導入、E I】



Apparatus : GCMS-QP5050A (SHIMADZU)

Sample : NI-25 (Lot No. NK-2268) Direct Introduction

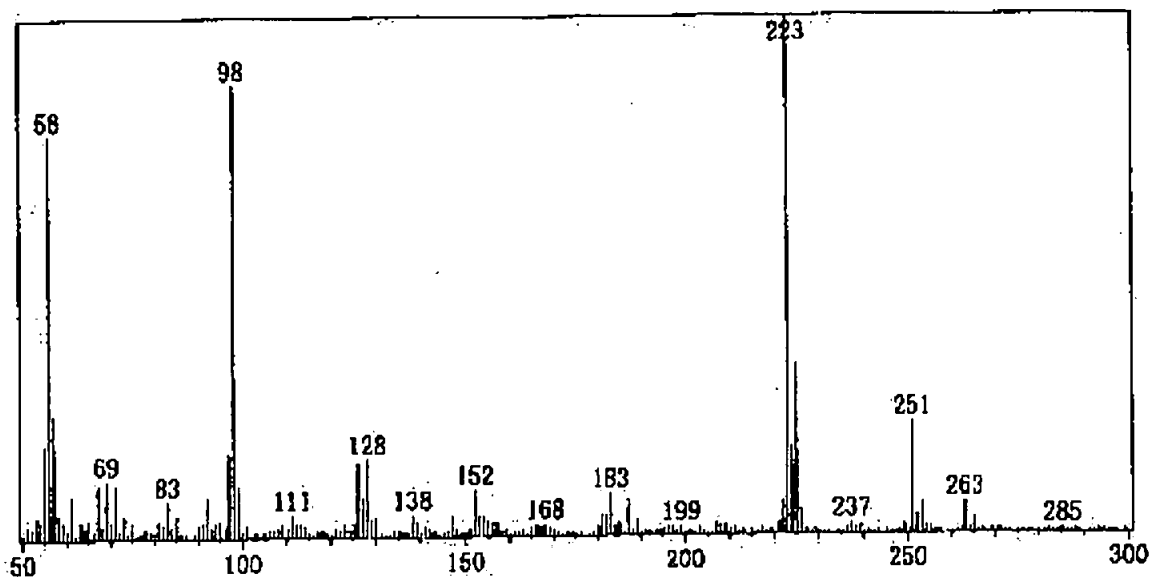
MS (E I) スペクトル

・ピークの確認 (E I)

mass	fragment
126	<chem>Clc1ccncc1C[CH2+]</chem>
152	<chem>Clc1ccncc1C[N+](C)=O</chem>
166	<chem>Clc1ccncc1C[N+](C)=O</chem>

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【直接導入、C I】



Apparatus : GCMS-QP5050A (SHIMADZU)

Sample : N1-25 (Lot No. NK-2268) Direct Introduction

MS (C I) スペクトル

・ピークの確認(C I)

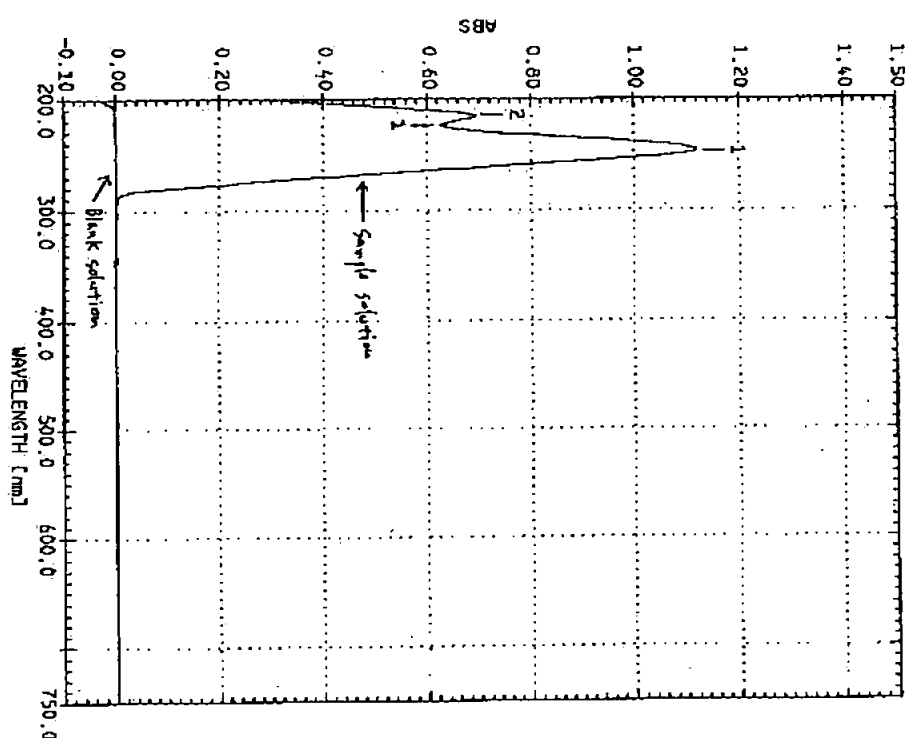
mass	fragment
223	MH^+
251	$(M+C_2H_5)^+$
263	$(M+C_3H_5)^+$

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

④ UV/VIS (UV/VIS スペクトル)

・分子吸光係数(ϵ)及び帯域幅

	λ max (nm)	吸収係数	ϵ	帯域幅 (nm)
酸性溶液	248	1.121	1.96×10^4	41
	215	0.696	1.22×10^4	分析せず
アルカリ性溶液	246	1.090	1.91×10^4	41
中性溶液	247	1.128	1.97×10^4	41
	217	0.692	1.21×10^4	分析せず



*** PEAK-PICK ***

NO.	λ	ABS	λ	ABS
1	248.0	1.121	224.0	0.622
2	215.0	0.696		

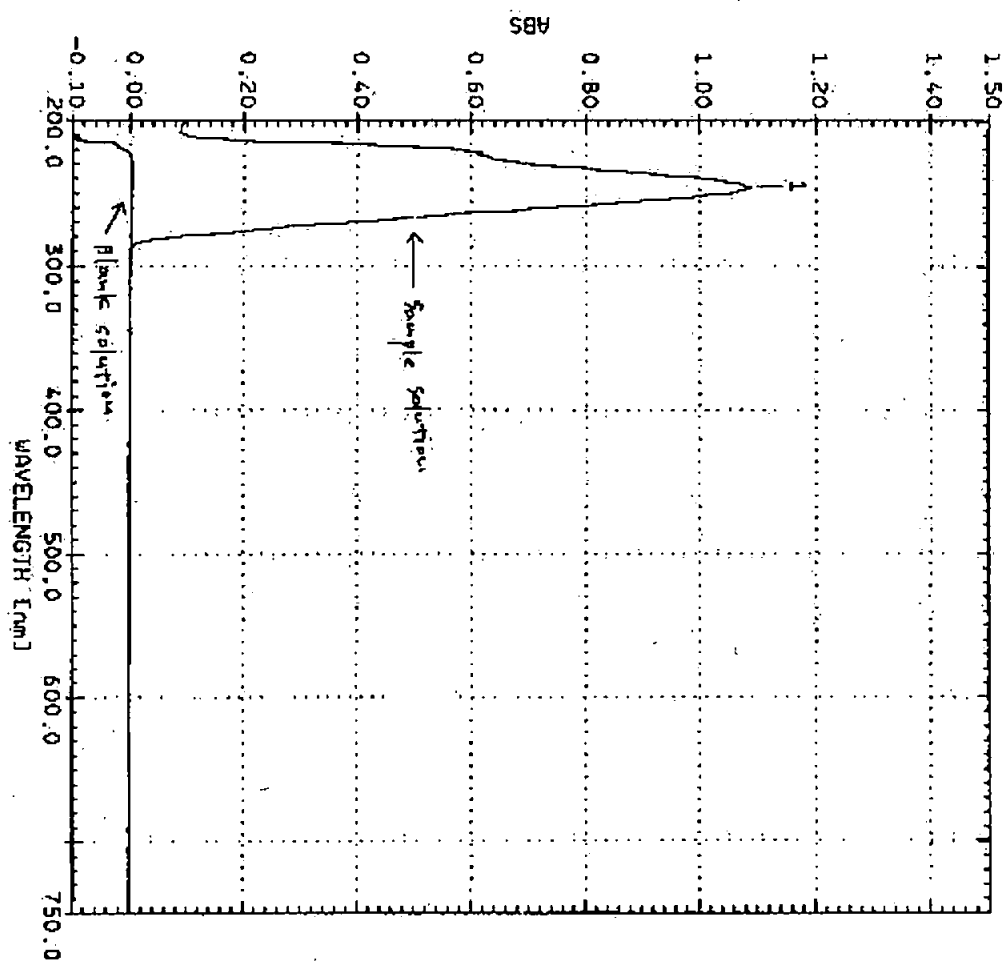
--- PEAK --- --- VALLEY ---

Apparatus : UV-160A (SHIMADZU)

Sample : NI-25 (Lot No. NK-2268) 12.7ppm

UV/VIS スペクトル : 酸性溶液

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。



*** PEAK-PICK ***

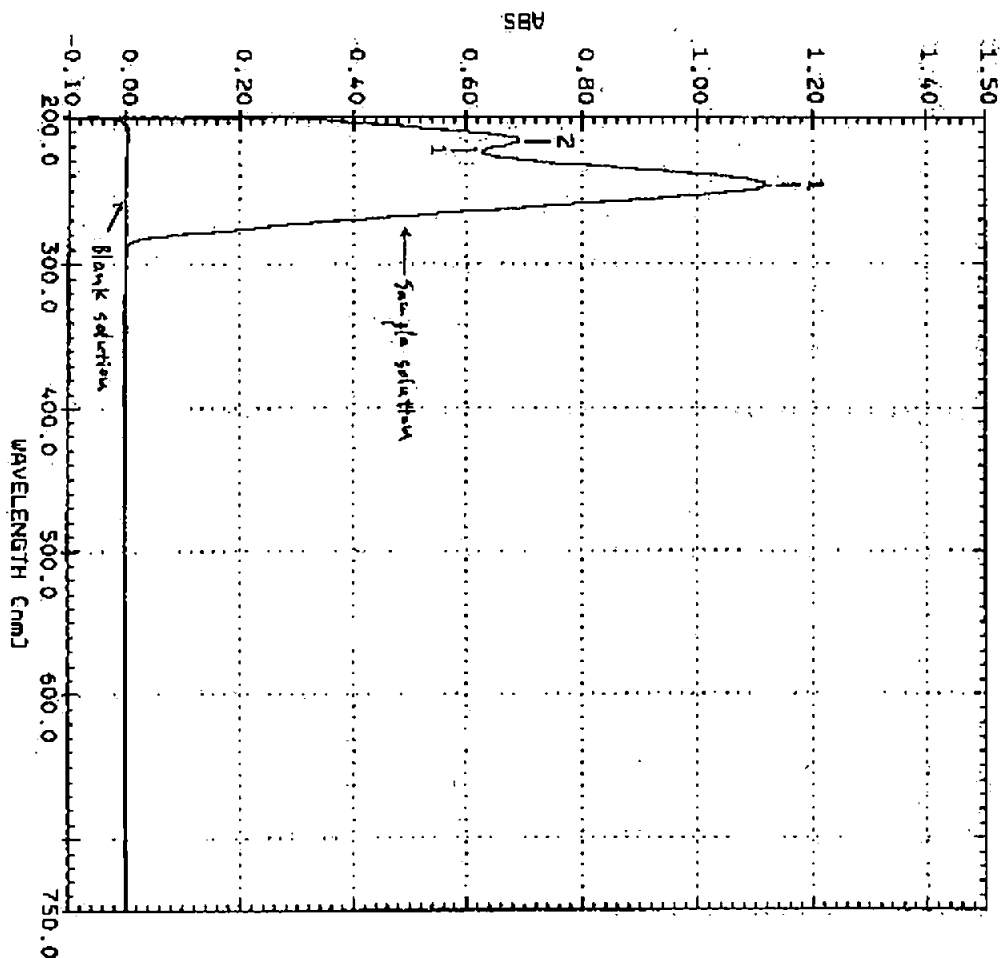
No.	λ	ABS	λ	ABS
1	266.0	1.090		

Apparatus : UV-160A (SHIMADZU)

Sample : N1-25 (Lot No. NK-2268) 12.7ppm

UV/VIS スペクトル : アルカリ性溶液

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。



*** PEAK-PICK ***

No.	λ	ABS	λ	ABS
1	247.0	1.128	223.0	0.626
2	217.0	0.692		

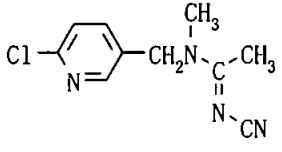
Apparatus : UV-160A (SHIMADZU)

Sample : NI-25 (Lot No. NK-2268) 12.7ppm

UV/VISスペクトル : 中性溶液

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3. 成分組成

区分	名 称		構造式	分子式	分子量	含有量(%)	
	一般名	化学名				規格値	通常値
有効成分	アセタミブド	(E)-N ¹ -[(6-クロロ-3-ピリジル)メチル]-N ² -シアノ-N ¹ -メチルアセトアミジン		C ₁₀ H ₁₁ ClN ₄	222.68		
原体混在物							

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

4. 製剤の組成

1) 30.0%水溶剤(イールダーSG)	
アセタミプリド	30.0%
界面活性剤、無機塩類 等	70.0%
2) 20.0%液剤(マツグリーン液剤)	
アセタミプリド	20.0%
溶媒、界面活性剤 等	80.0%
3) 20.0%水溶剤(モスピラン顆粒水溶剤)	
アセタミプリド	20.0%
乳糖、色素、界面活性剤 等	80.0%
4) 20.0%水溶剤(モスピラン水溶剤)	
アセタミプリド	20.0%
乳糖、色素、界面活性剤 等	80.0%
5) 18.0%液剤(モスピランSL液剤)	
アセタミプリド	18.0%
溶媒、界面活性剤、色素 等	82.0%
6) 15.0%くん煙剤(モスピランジェット)	
アセタミプリド	15.0%
塩素酸カリウム	14.0%
鉍物質、発熱剤 等	71.0%
7) 2.0%粒剤(モスピラン粒剤)	
アセタミプリド	2.0%
鉍物質微粉 等	98.0%
8) 2.0%液剤(モスピラン液剤)	
アセタミプリド	2.0%
溶媒、界面活性剤、着色剤 等	98.0%
9) 0.010%エアゾル剤(モスピラン・トップジンMエアゾール)	
アセタミプリド	0.010%
チオファネートメチル	0.15%
水、界面活性剤、噴射剤 等	99.84%
10) 0.0050%液剤(モスピランスプレー)	
アセタミプリド	0.0050%
水、色素、界面活性剤 等	99.995%
11) 2.0%液剤(マツグリーン液剤2)	
アセタミプリド	2.0%
有機溶媒、界面活性剤 等	98.0%

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

12) 0.0050%水和剤(モスピラン・トップジンMスプレー)

アセタミプリド	0.0050%
チオファネートメチル	0.040%
水、界面活性剤 等	99.955%

13) 1.0%粒剤(モスピランワン粒剤)

アセタミプリド	1.0%
鉍物質微粉 等	99.0%

14) 0.6%アセタミプリド複合肥料(カダン殺虫肥料)

アセタミプリド	0.6%
複合肥料 等	99.4%

Ⅲ. 生物活性

1. 活性の範囲

本剤は広範囲の病害虫に活性を示し、現在までに活性の確認された病害虫は次のとおりである。

◎ アザミウマ目

ミナミキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ

◎ カメムシ目

タバココナジラミ、オンシツコナジラミ、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシ、ダイコンアブラムシ、モモコフキアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ、ブドウネアブラムシ、リンゴワタムシ、ツマグロアオカスミカメ、ミナミアオカメムシ、カキノヒメヨコバイ、ナシキジラミ、ミカンコナカイガラムシ、フジコナカイガラムシ、クワコナカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ、ヤノネカイガラムシ、ツノロウムシ、アカマルカイガラムシ、フタテンヒメヨコバイ、チャノミドリヒメヨコバイ、ツツジグンバイ

◎ チョウ目

コナガ、アオムシ、ハイマダラノメイガ、ウリノメイガ、ハスモンヨトウ、タマナヤガ、オオタバコガ、キンモンホソガ、ミカンハモグリガ、カキノヘタムシガ、モモシンクイガ、ナシヒメシンクイ、モモハモグリガ、ギンモンハモグリガ、アゲハ、ナシチビガ、アメリカシロヒトリ、コスカシバ、イチジクヒトリモドキ、チャノホソガ、チャドクガ、スジキリヨトウ、シバツトガ

◎ 甲虫目

コアオハナムグリ、ケシキスイ類、キスジノミハムシ、テントウムシダマシ、ジュウシホシクビナガハムシ、ゴマダラカミキリ、キボシカミキリ、マツノマダラカミキリ、ブドウトラカミキリ、テンサイトビハムシ、シバオサゾウムシ、モモチョッキリゾウムシ、マダラカサハラハムシ

◎ 双翅目

ナモグリバエ、トマトハモグリバエ、オウトウショウジョウバエ、テンサイモグリハナバエ

2. 作用機構

本剤の作用機作は、主として生化学的および電気生理学的手法を用いた実験により、次のように推察される。

本剤を処理したワモンゴキブリ雄成虫は、処理後直ちに興奮・痙攣といった中毒症状を示し、その後運動失調に続いて麻痺におちいり、死に至った。

また、イエバエ頭部の膜面分を用いた生化学的実験から、本剤がトリチウムでラベルされたγ-ブングロトキシンのニコチン性アセチルコリン受容体への結合を強く阻害することが判った。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

さらに、ワモンゴキブリの摘出神経を用いた活動電位の検討では、本剤の処理により神経の興奮とシナプス伝達の遮断が引き起こされたが、軸索伝導は影響を受けなかった。また、ニコチンとの前後処理で、シナプス伝達の遮断に変化は見られなかった。よって、本剤の作用は脱分極性の遮断作用を示すニコチンと同質のものであると推察された。

以上の結果より、本剤は昆虫神経のシナプス後膜のアセチルコリン受容体にアゴニストとして作用するものと考えられる。

3. 作用特性と防除上の利点

① 殺虫スペクトラムが広い

果樹・野菜のカメムシ目害虫(アブラムシ類、コナジラミ類、カイガラムシ類、ヨコバイ類など)、チョウ目害虫(コナガ、ハモグリガ類、シンクイムシ類など)、アザミウマ目害虫(アザミウマ類)などに卓効を示し、一部の甲虫目害虫(カミキリムシ類、ハムシ類など)、ハエ目害虫(ハモグリバエ類)に対しても活性を示すなど、殺虫スペクトラムが広い。

② 浸透性・移行性が強い

本剤は高い浸透性を有するので、根からの吸収移行作用により、粒剤などの土壌処理により地上部の害虫の防除も可能である。

③ 種々の殺虫作用を有する

本剤は、一般に経口毒性、接触毒性共に強く、特に経口毒性がより強い傾向にある。また、一部の害虫(ゴマダラカミキリ)では摂食阻害作用も見られ、これらの作用が総合的に働いて、防除効果を示す。

④ 即効的に殺虫力を示す

本剤は、接触毒性も強いいため、散布後短時間でノックダウン効果を示す。

⑤ 残効が長い

本剤は、害虫種・処理方法にもよるが、残効が比較的長い。例えば、水溶剤の2000倍散布で、キャベツのコナガに7~10日間の残効、果菜類・果樹類のアブラムシ類に2~3週間の残効、粒剤の株当たり1g植穴処理で、キャベツのコナガに3週間の残効を有する。

⑥ 有用昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)に対する毒性が低い

本剤は実用濃度レベルでは、ミツバチ、マルハナバチに対する影響は低く、ミツバチ、マルハナバチを受粉に利用する場面で有効に活用されている。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

IV. 適用及び使用上の注意

1. 適用病害虫の範囲及び使用方法

【モスピラン水溶剤 (アセタミプリド 20%)】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数			
麦類	アブラムシ類	4000 倍	60～ 150L/10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内			
とうもろこし (未成熟とうもろ こしを除く)		2000～ 4000 倍		収穫 14 日 前まで						
未成熟とうもろこし				収穫前日 まで						
ソルガム		6000 倍		収穫 45 日 前まで						
だいず	フタスジヒメハムシ	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布				
豆類 (種実、ただし、 だいずを除く)	アブラムシ類	2000～ 4000 倍								
ばれいしょ	ジャガイモガ	2000 倍		収穫 7 日 前まで						
	テントウムシダマシ	2000～ 4000 倍								
	アブラムシ類	2000～ 6000 倍								
かんしょ	アブラムシ類	4000 倍		収穫前日 まで			5 回以内	3 回以内		
やまのいも	アブラムシ類			収穫 7 日 前まで						
やまのいも (種芋栽培)	アサミウマ類 ナガイモコガ			種芋掘取り 7 日前まで						
てんさい	テンサイトビハムシ テンサイモグリハナハエ	200 倍		ペーパーポット 1 冊当り 1L(3L/m ²)			定植前	1 回	苗床灌注	3 回以内 (苗床灌注は 1 回以内)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数		
だいこん	コナガ アオムシ キスジノミハムシ ダイコンサルハムシ	2000倍	100～ 300L/10a	収穫14日 前まで	1回	散布	1回		
	カブラハバチ アブラムシ類	2000～ 4000倍							
はつかだいこん	アブラムシ類	4000倍		収穫21日 前まで					
かぶ	キスジノミハムシ アブラムシ類	2000倍							
	カブラハバチ	4000倍							
わさびだいこん	コナガ	2000倍		収穫7日 前まで					
クレソン	アブラムシ類	4000倍		収穫3日 前まで					3回以内
はくさい	コナガ アオムシ	1000～ 2000倍		収穫14日 前まで	3回以内				4回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計3回以内)
	アブラムシ類	2000～ 4000倍							
	カブラハバチ	4000倍							
キャベツ	コナガ アオムシ	1000～ 2000倍		収穫7日 前まで	5回以内				6回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計5回以内)
	アブラムシ類 アザミウマ類	2000～ 4000倍							
メキャベツ	アブラムシ類	2000倍				1回			
こまつな	アブラムシ類 キスジノミハムシ カブラハバチ	4000倍	収穫14日 前まで	1回		2回以内 (粒剤の株元散布 は1回以内、 散布は1回以内)			
チンゲンサイ									
なばな類	アブラムシ類 キスジノミハムシ					1回			
カブラワー	コナガ アオムシ アブラムシ類	2000倍	収穫7日 前まで	3回以内		3回以内			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタプリドを含む農薬の総使用回数
ブロッコリー	コナガ アオムシ アブラムシ類 アザミウマ類	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計 3 回以内)
茎ブロッコリー	アブラムシ類	4000 倍		収穫前日 まで	2 回以内		2 回以内
非結球キャベツ		2000 倍					
非結球あぶらな 科葉菜類 (こまつな、 チンゲンサイを除く)	アブラムシ類 キスジノミハムシ	4000 倍		収穫 7 日 前まで	1 回		1 回
なずな							
しゅんぎく	アブラムシ類	8000 倍		収穫 3 日 前まで	2 回以内		2 回以内
レタス	アブラムシ類 ナモグリハエ	2000～ 4000 倍		収穫前日 まで	3 回以内		4 回以内 (粒剤の株元散布 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
非結球レタス	アブラムシ類 アザミウマ類 ナモグリハエ	4000 倍		収穫 7 日 前まで	1 回		2 回以内 (粒剤の株元散布 は 1 回以内、 散布は 1 回以内)
くきちしゃ							2 回以内
ははこぐさ	アブラムシ類	8000 倍					1 回
ふき	コナジラミ類	3000 倍		収穫 14 日 前まで	2 回以内		3 回以内 (粒剤の株元散布 は 1 回以内、 散布は 2 回以内)
たまねぎ							3 回以内
ねぎ	アザミウマ類	2000 倍	収穫 7 日 前まで	3 回以内	3 回以内 (は種時の 土壌混和は 1 回以内、植付時 の土壌混和及び 定植当日までの 株元散布は 合計 1 回以内)		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数
にら	アブラムシ類 アザミウマ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	3回以内	散布	3回以内
アスパラガス	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 ジウホシクビナガハムシ				2回以内		2回以内
わけぎ	アザミウマ類	2000倍		収穫7日 前まで	3回以内		4回以内 (土壌混和は 1回以内、 散布は3回以内)
食用ゆり	アブラムシ類	4000倍		収穫前日 まで	4回以内		4回以内
らっきょう	アザミウマ類	2000倍		収穫14日 前まで	3回以内		3回以内
にんじん	アブラムシ類 キアゲハ	4000倍		収穫前日 まで			
パセリ	アブラムシ類	8000倍		収穫3日 前まで	1回		1回
セルリー		4000倍		収穫7日 前まで	2回以内		2回以内 (定植時の土壌混 和は1回以内)
みつば		8000倍		収穫7日 前まで 但し、伏せ 込み栽培 は伏せ込 み前まで	1回		1回
あしたば	アブラムシ類 キアゲハ	4000倍					3回以内
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	2000倍	収穫前日 まで	3回以内	4回以内 (粒剤の定植時ま での処理は 1回以内、散布、 くん煙及び定植後 の株元散布は 合計3回以内)		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチアリドを含む農薬の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	3 回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1 回以内、散布、 くん煙及び定植後 の株元散布は 合計 2 回以内)
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類 コナジラミ類	2000 倍			3 回以内		4 回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1 回以内、散布、 くん煙及び定植後 の株元散布は 合計 3 回以内)
	アザミウマ類	2000～ 4000 倍			2 回以内		2 回以内
とうがらし類	アブラムシ類	8000 倍			2 回以内		2 回以内
しよくよう ほおずき	アブラムシ類	4000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
きゅうり	コナジラミ類 クリノメイガ	2000 倍		3 回以内	3 回以内		5 回以内 (2%粒剤の定植時 の株元散布は 1 回以内、2%粒剤 の定植後の 株元散布は 1 回以内、散布、 くん煙及び 1%粒剤の 株元散布は 合計 3 回以内)
	アブラムシ類 アザミウマ類	2000～ 4000 倍					
かぼちゃ	アブラムシ類	2000～ 4000 倍		2 回以内	2 回以内		3 回以内 (は種時または 定植時の 土壌混和は 合計 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計 2 回以内)
	カボチャミハエ	2000 倍					
	ウリハムシ	4000 倍					
うり類(漬物用)	アブラムシ類 アザミウマ類	2000～ 4000 倍	3 回以内	3 回以内	3 回以内		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチムプリドを含む農薬の総使用回数	
すいか	アブラムシ類 アザミウマ類	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (定植時の 土壌混和は 1 回以内、散布、 くん煙及び定植後 の株元散布は 合計 3 回以内)	
	コナジラミ類 ウリノメイガ	2000 倍						
	ウリハムシ	4000 倍						
メロン	アブラムシ類	8000 倍		収穫前日 まで	2 回以内		3 回以内	3 回以内
まくわうり		4000 倍			3 回以内		3 回以内	
にがうり		8000 倍			2 回以内		2 回以内	
ほうれんそう	アブラムシ類	8000 倍		収穫 14 日 前まで	2 回以内		3 回以内	3 回以内
オクラ		4000 倍						
さやいんげん		2000～ 4000 倍						
さやえんどう	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	4000 倍		収穫前日 まで	3 回以内		4 回以内 (は種時または 定植時の 土壌混和は 合計 1 回以内、 散布は 3 回以内)	
えだまめ								
豆類 (未成熟、 ただし、 えだまめ、 さやいんげん、 さやえんどう を除く)								3 回以内
アマランサス (茎葉)	アブラムシ類	8000 倍		収穫 3 日 前まで	1 回		1 回	
エンサイ		4000 倍			2 回以内		2 回以内	
食用さくら(葉)	アザミウマ類	4000 倍		200～ 700L/10a	収穫 3 日 前まで		1 回	1 回
食用金魚草	アブラムシ類	8000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	2 回以内	2 回以内		
食用プリムラ	アザミウマ類	2000 倍						
食用ぎく	アブラムシ類 アザミウマ類	2000 倍						

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数
食用カーネーション 食用エキザカム 食用せんじちこう 食用トレニア 食用ハンジー 食用なでしこ	アブラムシ類	8000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内
モロヘイヤ	コナジラミ類	4000 倍		収穫 21 日 前まで	1 回		1 回
つるな	アブラムシ類	4000～ 8000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
ふだんそう		4000 倍		収穫 7 日 前まで	2 回以内		2 回以内
ヤングコーン		2000 倍		収穫前日 まで			
かき(葉)	アザミウマ類 カイガラムシ類 カキノハタムシガ カキノヒメコハライ カメムシ類	4000 倍	200～ 700L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
たらきのき	センノガキリ	2000 倍		収穫 45 日 前まで			
やまのいも (むかご)	アブラムシ類 アザミウマ類 ナガイモコガ	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 21 日 前まで	2 回以内		2 回以内
なんてん(葉)	アザミウマ類						
おけら	アブラムシ類			発生初期	5 回以内		
びやくし	アゲハ類						
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 カイガラムシ類 ゴマダラガキリ成虫 コアオハナムグリ ケシキスイ類 アゲハ類 カメムシ類 ミカンハエ	2000～ 4000 倍	200～ 700L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	3 回以内	
	コナジラミ類	4000 倍					
	ゴマダラガキリ	200～ 400 倍	30～ 75L/10a	主幹から 株元に 散布			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数					
りんご	アブラムシ類 キンモンハモグリガ キンモンホソガ シンクイムシ類 カメムシ類 リンゴワタムシ	2000～ 4000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内					
	カイガラムシ類 モモチョッキリゾウムシ	4000 倍										
	ケムシ類	2000 倍										
なし	カメムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 カキノヒメヨコハイ	2000～ 4000 倍										
	びわ							アブラムシ類 カミキリムシ類				
		カイガラムシ類						2000 倍				
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 アザミウマ類 カメムシ類	2000～ 4000 倍										
	コスカシハ カイガラムシ類	2000 倍										
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 アザミウマ類 カメムシ類	4000 倍							収穫 3 日 前まで			
すもも	カイガラムシ類	2000 倍							収穫前日 まで			
	アブラムシ類	2000～ 4000 倍										
	シンクイムシ類	4000 倍										
うめ	アブラムシ類	2000～ 6000 倍										
	ケンキスイ類 ノメタガリキリガ カイガラムシ類	2000 倍										

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数
小粒核果類 (うめ、すももを 除く)	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	カイガラムシ類	2000 倍					
おうとう	カメムシ類 オウトウショウジョウバエ	2000～ 4000 倍			1 回		1 回
	アザミウマ類	4000 倍					
いちご	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	2 回以内	2 回以内		3 回以内 (粒剤の株元散布 及び土壌混和は 合計 1 回以内、 散布及びくん煙は 合計 2 回以内)
	コナジラミ類 アザミウマ類	2000 倍					
ブルーベリー	オウトウショウジョウバエ	4000 倍	200～ 700L/10a	1 回	1 回		1 回
ぶどう	カイガラムシ類 アザミウマ類 フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類成虫	2000～ 4000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回以内		3 回以内
	ツマグロアオカスミカメ トビイロトラガ ブトウトラカミキリ	2000 倍		収穫後 秋期			
かき	アザミウマ類 カイガラムシ類 カキノヘタムシガ カキノヒメヨコバイ カメムシ類	2000～ 4000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	3 回以内	
キウイフルーツ	カイガラムシ類	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	3 回以内	
	キウイヒメヨコバイ	2000～ 4000 倍					
マンゴー	アザミウマ類 カイガラムシ類	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫 35 日 前まで	3 回以内	3 回以内	
パッションフルーツ	カイガラムシ類			収穫 30 日 前まで			
あけび(果実)	アブラムシ類	4000 倍	200～ 700L/10a	収穫 7 日 前まで	2 回以内	2 回以内	
アセロラ							

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数
いちじく	アサミウマ類 キボシカミキリ カイガラムシ類 イチジクヒトリモドキ	2000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
かりん	ナシヒメシクイ			収穫 14 日 前まで	2 回以内		2 回以内
ゴレンシ	カイガラムシ類	4000 倍		収穫 21 日 前まで	3 回以内		3 回以内
さるなし	クワシロカイガラムシ	2000 倍		収穫 7 日 前まで	2 回以内		2 回以内
なたね	アブラムシ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 45 日 前まで	1 回	散布	1 回
くり	カイガラムシ類 クリシキ'ゾウムシ			200～ 700L/10a	収穫 7 日 前まで		3 回以内
茶	チャノミ'リヒメヨコハイ チャノキイロアサミウマ チャノホソガ'	2000～ 4000 倍	200～ 400L/10a	摘採 14 日 前まで	1 回		1 回
さんしょう(果実)	アブラムシ類 アサミウマ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	樹幹散布	4 回以内 (散布は 1 回以内、 樹幹散布は 3 回以内)
		ゴマダ'ラカミキリ幼虫	200 倍				
さんしょう(葉)	アブラムシ類 アサミウマ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 45 日 前まで	6 回以内	散布	6 回以内
あさつき	アサミウマ類	2000 倍		収穫 7 日 前まで	3 回以内		4 回以内 (土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
オレガノ はっか	アブラムシ類	8000 倍		収穫 21 日 前まで			3 回以内
タイム チャービル ディル(葉) バジル				収穫 14 日 前まで			
マジョラム				収穫 21 日 前まで			
レモンバーム				収穫 14 日 前まで			
セージ		4000～ 8000 倍		収穫 21 日 前まで	2 回以内		2 回以内
しそ タラコン		4000 倍		収穫 14 日 前まで			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタプロトを含む農薬の総使用回数
ザンサイ	アブラムシ類 キスジノミハムシ	4000倍	100～ 300L/10a	収穫7日 前まで	1回	散布	1回
たばこ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	25～ 180L/10a	収穫10日 前まで	2回以内		3回以内 (但し定植後は 2回以内)
いね科牧草		6000倍		収穫30日 前まで	3回以内		3回以内
まめ科牧草 飼料用とうもろこし	収穫90日 前まで						
ストック	アザミウマ類	2000倍	100～ 300L/10a	発生初期	5回以内		5回以内 (粒剤は1回以内)
	アブラムシ類	2000～ 4000倍					
きく	アブラムシ類	4000倍					
	アザミウマ類	2000倍					
花き類・観葉植物 (きく、ストックを除く)	アブラムシ類	4000倍	200～ 700L/10a				5回以内
	アザミウマ類	2000倍					
つつじ類	ツツジガンハイ	2000～ 4000倍					5回以内 (樹幹注入は 1回以内)
まつ	アブラムシ類						
やなぎ	ヤナギコハモクリ				3回以内		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピラン粒剤(アセタミプリト' 2%)】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリトを含む農薬の総使用回数	
ばれいしょ	アブラムシ類	3~6kg/10a	植付時	1回	植溝 土壌混和	4回以内 (植付時の土壌混和は1回以内、 植付後は3回以内)	
さといも							
こんにゃく	ワタアブラムシ	3kg/10a	培土時 (出芽期)		株元 土壌混和	1回	
だいこん	コナガ' アブラムシ類		は種時		播溝 土壌混和		
はくさい	コナガ' アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ'	0.5g/株	定植前日~ 定植当日		株元散布	4回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、 散布及び定植後の株元散布は 合計3回以内)	
	コナガ' アオムシ アブラムシ類	1g/株	定植時		植穴 土壌混和		
キャベツ	コナガ' アオムシ	1~2g/株			1回	株元散布	6回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、 散布及び定植後の株元散布は 合計5回以内)
	コナガ' アオムシ アブラムシ類	0.5~1g/株	定植前日~ 定植当日				
	ハイマダラノメイガ' ハスモンヨトウ	0.5g/株					
	アブラムシ類	1g/株	定植時				
		1~2g/株					
チンゲンサイ	コナガ' アブラムシ類 アオムシ	0.5g/株	定植前日~ 定植当日	株元散布	2回以内 (粒剤の株元散布は1回以内、 散布は1回以内)		
ブロッコリー	ハイマダラノメイガ'			1回	株元散布	4回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、 散布及び定植後の株元散布は 合計3回以内)	
	コナガ' アオムシ アブラムシ類	0.5~1g/株					
	アオムシ アブラムシ類	1g/株	定植時				
	コナガ'	1~2g/株					
					植穴 土壌混和		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリトを含む農薬の総使用回数		
非結球あぶらな 科葉菜類 (チンゲンサイを除く)	コナガ アブラムシ類	3kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	1回		
	ひこしまはるな	1g/株	定植時		植穴 土壌混和			
レタス	ナモグリハエ オオタバコガ ヨトウムシ	0.5g/株	定植前日～ 定植当日		株元散布	4回以内 (粒剤の株元散布は 1回以内、散布は 3回以内)		
	アブラムシ類	0.25～0.5g/株						
非結球レタス	ナモグリハエ オオタバコガ ヨトウムシ	0.5g/株						
	コナジラミ類 モモアカアブラムシ	2g/株 (但し、30kg/10aまで)					収穫90日 前まで	3回以内 (粒剤の株元散布は 1回以内、散布は 2回以内)
ねぎ	ネキアサミウマ ネキハモグリハエ	0.25～0.5g/株	定植前日～ 定植当日			1回	播溝 土壌混和	3回以内 (は種時の土壌混和 は1回以内、 植付時の土壌混和 及び定植当日までの 株元散布は 合計1回以内)
			は種時				植溝 土壌混和	
			植付時					
わけぎ			は種時				播溝 土壌混和	4回以内 (土壌混和は 合計1回以内、 散布は3回以内)
			植付時	植溝 土壌混和				
セルリー	アブラムシ類	0.5g/株	定植時	植穴 土壌混和			2回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内)	
トマト ミニトマト	コナジラミ類	1g/株	定植前日～ 定植当日	3回以内	株元散布		4回以内 (粒剤の定植時までの 処理は1回以内、 散布、くん煙及び 定植後の株元散布 は合計3回以内)	
	コナジラミ類 トマトハモグリハエ アブラムシ類		定植時		植穴 土壌混和			
	アブラムシ類	0.5g/株	生育期 但し、収穫 前日まで		株元散布			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタフリットを含む農薬の総使用回数
なす	アブラムシ類	0.5g/株	定植前日～定植当日	1回	株元散布	4回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、 散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)
		0.5～1g/株	定植時		植穴 土壌混和	
	ミナキイロアザミウマ	1g/株			株元散布	
	コナジラミ類	0.5～1g/株	定植前日～定植当日		株元散布	
ピーマン	アブラムシ類	0.5g/株	定植時		植穴 土壌混和	3回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、 散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計2回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類		定植前日～定植当日		株元散布	
きゅうり	アブラムシ類	0.5～1g/株	定植時		株元散布	5回以内 (2%粒剤の定植時の株元散布は1回以内、2%粒剤の定植後の株元散布は1回以内、散布、くん煙及び1%粒剤の株元散布は合計3回以内)
		0.5g/株	定植後、 但し収穫30日前まで			
かぼちゃ		1g/株	定植時	植穴 土壌混和	3回以内 (は種時または定植時の土壌混和は合計1回以内、 散布及び定植後の株元散布は合計2回以内)	
			は種時	播溝 土壌混和		
すいか		1g/株	定植時	植穴 土壌混和	4回以内 (定植時の土壌混和は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)	
えだまめ		3kg/10a	は種時	播溝 土壌混和	4回以内 (は種時または定植時の土壌混和は合計1回以内、 散布は3回以内)	
		1g/株 (但し、30kg/10aまで)	定植時	植穴 土壌混和		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数
いちご	アブラムシ類	0.5g/株	定植時	1回	株元散布	3回以内 (粒剤の株元散布及び土壌混和は合計1回以内、散布及びくん煙は合計2回以内)
		0.5~1g/株	生育期 (定植30日後まで) 但しマルチ被覆直前まで			
	コナジラミ類 コガネムシ類幼虫	1g/株	定植時		植穴 土壌混和	
ぶどう	ブドウネアブラムシ	30g/m ² (但し6kg/10a以下)	収穫14日前まで	3回以内	樹冠下または主幹周辺に散布	3回以内
あさつき	ネギアザミウマ ネギハモグリハエ	6kg/10a	は種時	1回	播溝 土壌混和	4回以内 (土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内)
			植付時		植溝 土壌混和	
かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ	10~20g/樹	育苗期	1回	株元散布	1回
たばこ	アブラムシ類	0.5~1g/株	定植時			3回以内 (但し定植後は2回以内)
		0.25g/株	育苗期後半			
きく	アブラムシ類	0.5~1g/株 (但し、30kg/10aまで)	生育初期			5回以内 (粒剤は1回以内)
			定植時			
	アザミウマ類 ハモグリハエ類	1g/株 (但し、30kg/10aまで)		植溝 土壌混和		
つつじ類	ツツジゲンハイ	3~6kg/10a	発生初期	株元散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)	
					ハイマダラノメイガ	0.5g/株

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピランジェット(アセタフリト' 15%)】

作物名	適用場所	適用病虫害名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタフリトを含む農薬の総使用回数
アスパラガス	温室、 ビニールハウス 等の密閉 できる場所	アザミウマ類	くん煙室 容積 400 m ³ (床面積 200 m ² ×高さ 2m) 当り 50g	収穫前日まで	2回以内	くん煙	2回以内
トマト ミニトマト		コナジラミ類 シカキイロアザミウマ			3回以内		4回以内 (粒剤の定植時までの 処理は1回以内、 散布、くん煙及び 定植後の株元散布 は合計3回以内)
ピーマン		アブラムシ類			2回以内		3回以内 (粒剤の定植時までの 処理は1回以内、 散布、くん煙及び 定植後の株元散布 は合計2回以内)
なす		アブラムシ類 シカキイロアザミウマ			4回以内 (粒剤の定植時までの 処理は1回以内、 散布、くん煙及び 定植後の株元散布 は合計3回以内)		
きゅうり		アブラムシ類 コナジラミ類 シカキイロアザミウマ			5回以内 (2%粒剤の定植時の 株元散布は 1回以内、2%粒剤の 定植後の株元散布 は1回以内、 散布、くん煙及び 1%粒剤の株元散布 は合計3回以内)		
スッキーニ		アブラムシ類			2回以内		2回以内
すいか		シカキイロアザミウマ アブラムシ類			3回以内		4回以内 (定植時の土壌混和 は1回以内、 散布、くん煙及び 定植後の株元散布 は合計3回以内)
メロン		アブラムシ類 アザミウマ類			3回以内		3回以内
スッキーニ (花)		アブラムシ類			2回以内		2回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用場所	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタプロトを含む農薬の総使用回数
みかん	温室、 ビニールハウス 等の密閉 できる場所	アブラムシ類 カイガラムシ類	くん煙室 容積400 m ³ (床面積200 m ² ×高さ2m) 当り50g	収穫3日 前まで	3回以内	くん煙	3回以内
いちご		アブラムシ類 アザミウマ類		収穫前日まで	2回以内		3回以内 (粒剤の株元散布 及び土壌混和は 合計1回以内、 散布及びくん煙は 合計2回以内)
ぶどう		ヨカイガラムシ類		収穫14日 前まで	3回以内		3回以内
アセロラ				収穫7日 前まで	2回以内		2回以内
みょうが (花穂)		アブラムシ類		くん煙、 但し花穂の 発生期には 花穂をマルチフ ィルム被覆した 状態で 使用する	収穫前日まで	3回以内	3回以内
みょうが (茎葉)				みょうが(花穂)の 収穫前日まで 但し花穂を 収穫しない 場合にあつては 開花期終了まで			
花き類・ 観葉植物 (トルコキキョウ を除く)				発生初期	5回以内	5回以内	
トルコキキョウ		アブラムシ類 シカキイロアザミウマ					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピランスプレー(アセタミプリト' 0.0050%)】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタミプリト'を含む農薬の 総使用回数
トマト	アブラムシ類 タバココナジラミ類 (シルバーリーフコナジラミを含む)	原液	収穫前日 まで	3回以内	希釈せず そのまま 散布する	4回以内 (粒剤の定植時までの 処理は1回以内、 散布、くん煙及び定植後の 株元散布は合計3回以内)
なす	ミナミキイロアサミウマ オンシツコナジラミ					
きゅうり	アブラムシ類 ミナミキイロアサミウマ					
かんきつ	アブラムシ類		収穫14日 前まで	3回以内		
うめ			収穫前日 まで			
きく ばら ゆり			発生初期	5回以内		5回以内
ペチュニア			ダンゴムシ			

【イールダーSG(アセタミプリト' 30%)】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタミプリト'を 含む農薬の 総使用回数
芝	コガネムシ類幼虫	2000~4000倍	発生 初期	3回以内	1㎡当り500mL 土壌注入	3回以内
	シバ'オサゾウムシ成虫	2000倍			1㎡当り500mL 散布	
	スジキリヨトウ				1㎡当り300mL 散布	
	シバ'ツトガ' タマナヤガ' チガ'ヤシロオカイガラムシ					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピラン液剤(アセタミプリト'2%)】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリトを含む農薬の総使用回数			
はくさい	アオムシ	250倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	4回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)			
キャベツ				収穫7日前まで	5回以内		6回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計5回以内)			
トマト	アブラムシ類	500倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3回以内		4回以内 (粒剤の定植時までの処理は1回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計3回以内)			
なす							5回以内 (2%粒剤の定植時の株元散布は1回以内、2%粒剤の定植後の株元散布は1回以内、散布、くん煙及び1%粒剤の株元散布は合計3回以内)			
きゅうり							3回以内			
かんきつ				カキノヘタムシガ	200～700L/10a		収穫14日前まで	5回以内	5回以内(粒剤は1回以内)	3回以内
うめ							収穫前日まで			
かき							発生初期			
きく				アブラムシ類	250倍		100～300L/10a	発生初期	5回以内	5回以内
ばら	ツツジグンバイ	200～700L/10a	5回以内							
ぺチュニア						5回以内				
ゆり	ツツジグンバイ	200～700L/10a	5回以内	5回以内	5回以内	5回以内 (樹幹注入は1回以内)				
いぬまき	チャトクガ	250倍	200～700L/10a	5回以内	5回以内	5回以内 (樹幹注入は1回以内)				
つつじ類	ツツジグンバイ	5000倍	100～300L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)			
つばき類	チャトクガ	250倍	200～700L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)			

【マツグリーン液剤(アセタミプリト'20%)】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリトを含む農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ成虫	1000倍	3L/本 (樹高10m)	成虫発生初期及び発生最盛期直前	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)
	アブラムシ類	5000倍		100～300L/10a			
つつじ類	ツツジグンバイ		200～700L/10a				
さくら	アメリカシロヒトリ	2500倍	200～700L/10a	発生初期	5回以内	散布	5回以内 (樹幹注入は1回以内)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピランSL液剤(アセタミプリト[®] 18%)】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリト [®] を含む農薬の総使用回数
麦類	アブラムシ類	4000～	60～	収穫7日前まで	2回以内		2回以内
とうもろこし(子実)		6000倍	150L/10a				
あずき	メイガ [®] 類	2000倍	100～ 300L/10a	収穫14日前まで		散布	3回以内
いんげんまめ		2000～ 4000倍					
豆類 (種実、ただし、 いんげんまめ、 あずきを除く)	アブラムシ類	4000倍					
ばれいしょ	テントウムシダマシ ナストビ [®] ハムシ	2000～ 6000倍	1000倍	25L/10a	収穫7日前まで		4回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、 植付後は 3回以内)
	アブラムシ類		64倍				
		やまのいも	4000倍	100～ 300L/10a			散布
てんさい	テンサイトビ [®] ハムシ	200倍	ペーパーポット 1冊当り 1L(3L/m ²)	定植前	1回	苗床灌注	3回以内 (苗床灌注は 1回以内)
	テンサイトビ [®] ハムシ アブラムシ類	4000倍		収穫3日前まで	3回以内		
だいこん	コナガ [®] アオムシ	2000倍	100～ 300L/10a	収穫14日前まで	1回	散布	1回
はつかだいこん	アブラムシ類	4000倍					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチアリドを含む農薬の総使用回数
はくさい	アブラムシ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	4回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1回以内、 散布及び 定植後の 株元散布は 合計3回以内)
	コナガ アオムシ	2000倍					
キャベツ	アブラムシ類	4000倍		収穫7日 前まで	5回以内		6回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1回以内、 散布及び 定植後の 株元散布は 合計5回以内)
	コナガ アオムシ	2000倍					
ブロッコリー	アブラムシ類	4000倍		収穫14日 前まで	3回以内		4回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1回以内、 散布及び 定植後の 株元散布は 合計3回以内)
	コナガ アオムシ	2000倍					
たまねぎ	アサミダマ類	4000倍		収穫7日 前まで	2回以内		3回以内
アスパラガス				収穫前日 まで			2回以内
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類	4000～ 6000倍	3.2L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	無人 ヘリコプター による 散布	3回以内
		64倍					
やまのいも (むかご)		4000倍	100～ 300L/10a	収穫21日 前まで		散布	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ コアオハナムグリ ケシキスイ類	4000 倍	200～ 700L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アサミウマ類 カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ成虫 カメムシ類 ミカンハエ	2000～ 4000 倍					
	ゴマダラカミキリ	400 倍	30～ 75L/10a			主幹から 株元に 散布	
びわ	アブラムシ類	4000 倍	200～	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
キウイフルーツ	キウイヒメコバイ		700L/10a	収穫 7 日 前まで			
茶	チャノトリヒメコバイ チャノキイロアサミウマ マダラカサハラハムシ ツマグロアオカスミカメ	2000 倍	200～ 400L/10a	摘採 14 日 前まで	1 回	散布	1 回
	コミカンアブラムシ チャノホソカ	2000～ 4000 倍					

【マツグリーン液剤 2(アセタミプリド 2%)】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
まつ(生立木)	マツカレハ	100～ 250 倍	3L/本	幼虫発生前から 幼虫発生期	5 回以内	散布	5 回以内 (樹幹注入は 1 回以内)
	マツノマダラカミキリ成虫	60～ 100 倍	(樹高 10m)	成虫発生直前から 発生初期			
つつじ類	アブラムシ類 ツツジグンバイ チュウレンジハバチ	500 倍	200～ 700L/10a	発生初期	5 回以内	無人 ヘリコプター による 散布	5 回以内 (樹幹注入は 1 回以内)
	カイガラムシ類 ケムシ類	250 倍					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタミプリドを 含む農薬の 総使用回数
とちのき	アブラムシ類	500 倍	200～ 700L/10a	発生初期	5 回以内	散布	5 回以内 (樹幹注入は 1 回以内)
	カイガラムシ類	250 倍					
	ケムシ類						
	トチノキヒメヨコバイ						
プラタナス	アブラムシ類	500 倍					
	カイガラムシ類	250 倍					
	ケムシ類						
	プラタナスグンバイ						
さんごじゅ	サンゴジュハムシ	500 倍					
	アブラムシ類	250 倍					
	カイガラムシ類						
ひらぎもくせい	ヘリクロテントウミハムシ	500 倍					
	アブラムシ類	250 倍					
	カイガラムシ類						
いぬまき	キオビエダシヤク	100～ 250 倍					
	アブラムシ類	500 倍					
	カイガラムシ類	250 倍					
	ケムシ類						
あじさい	コカネムシ類	500 倍					
	アブラムシ類	250 倍					
	カイガラムシ類						
樹木類 (つつじ類、 とちのき、 プラタナス、 さんごじゅ、 ひらぎもくせい、 いぬまき、 あじさいを除く)	アブラムシ類	500 倍					
	カイガラムシ類 ケムシ類	250 倍					
ばら	チュウレンジハバチ	500 倍	100～ 300L/10a				5 回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アセタミプリドを 含む農薬の 総使用回数
樹木類 (プラタナスを 除く)	カイガラムシ類	50 倍	胸高直径20cm未満は800mL、 20~30cm未満は1000~1200mL、 30~40cm未満は1400~1600mL、 40~50cm未満は2200~3400mL、 50~60cm未満は3400~5200mL、 60cm以上は直径4cm増すごとに 200mLを順次増量する	春季~秋季	1 回	樹幹 注入	5 回以内 (樹幹注入は 1 回以内)
プラタナス	カイガラムシ類 プラタナスグンバイ			春季~秋季			3 回以内 (樹幹注入は 1 回以内)
くり	カイガラムシ類			但し収穫 50 日前まで			

【モスピラン・トップジンMスプレー(アセタミプリド 0.0050%・チオファネートメチル 0.040%)】

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタミプリドを 含む農薬の 総使用回数	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
きゅうり	炭疽病 うどんこ病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前日まで	3 回以内	希釈せず そのまま 散布する	5 回以内 (2%粒剤の 定植時の 株元散布は 1 回以内、 2%粒剤の 定植後の 株元散布は 1 回以内、散布、 くん煙及び 1%粒剤の 株元散布は 合計 3 回以内)	6 回以内 (種子への処理 は 1 回以内、 は種後は 5 回以内)
トマト	葉かび病 コナジラミ類 アブラムシ類					4 回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1 回以内、散布、 くん煙及び 定植後の 株元散布は 合計 3 回以内)	
なす	アブラムシ類 コナジラミ類						
花き類・観葉植物 (きく、ばら、 プリムラ、 シンビジウムを除く)	アブラムシ類					発生初期	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタプリドを 含む農薬の 総使用回数	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
きく	黒斑病 褐斑病 ミナキイロアザミウマ アブラムシ類	原液	発生初期	5回以内	希釈せず そのまま 散布する	5回以内	5回以内
ばら	黒星病 うどんこ病 アブラムシ類						
プリムラ	灰色かび病 アブラムシ類						
シンピシウム	炭疽病 アブラムシ類						

【モスピランワン粒剤(アセタプリド1%)】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタプリドを 含む農薬の 総使用回数
はくさい	アブラムシ類	1~2g/株	定植後 但し、 収穫14日 前まで	3回以内	株元散布	4回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1回以内、散布及び定植後の 株元散布は合計3回以内)
キャベツ		1~2g/株 (但し、 9kg/10aまで)	定植後 但し、 収穫7日 前まで	5回以内		6回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1回以内、散布及び定植後の 株元散布は合計5回以内)
ブロッコリー		1~2g/株	定植後 但し、 収穫14日 前まで	3回以内		4回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1回以内、散布及び定植後の 株元散布は合計3回以内)
トマト ミニトマト	コナジラミ類	1g/株	定植後 但し、 収穫前日 まで			4回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1回以内、散布、くん煙及び 定植後の株元散布は 合計3回以内)
ピーマン	アブラムシ類	1~2g/株	定植後 但し、 収穫前日 まで	2回以内		3回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1回以内、散布、くん煙及び 定植後の株元散布は 合計2回以内)

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数
なす	アブラムシ類	1g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	4回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1回以内、散布、くん煙及び 定植後の株元散布は 合計3回以内)
	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2g/株	定植後 但し、 収穫前日 まで	3回以内		
	ミナキイロアザミウマ	1g/株				
きゅうり	アブラムシ類	1~2g/株			コナジラミ類 ミナキイロアザミウマ	1g/株
	かぼちゃ	1~2g/株	アブラムシ類	定植後 但し、 収穫3日 前まで		
すいか					4回以内 (定植時の土壌混和は 1回以内、散布、くん煙及び 定植後の株元散布は 合計3回以内)	
いちご		1g/株	定植時	1回	植穴 土壌混和	3回以内 (粒剤の株元散布及び 土壌混和は合計1回以内、 散布及びくん煙は 合計2回以内)
花き類・ 観葉植物		1g/株 (但し、 15kg/10aまで)	発生初期	5回以内	株元散布	5回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピラン顆粒水溶剤(アセタプロト 20%)】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタプロトを含む農薬の総使用回数	
麦類		4000倍	60～150L/10a	収穫7日前まで	2回以内	散布	2回以内	
とうもろこし (未成熟とうもろこしを除く)	アブラムシ類	2000～4000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	3回以内		散布	3回以内
未成熟とうもろこし	アブラムシ類	2000～4000倍		収穫前日まで				
ソルガム		6000倍		収穫45日前まで				
だいず	フタスジヒメハムシ	4000倍		収穫14日前まで				
豆類 (種実、ただし、だいずを除く)	アブラムシ類	2000～4000倍						
ばれいしょ	ジャガイモガ	2000倍		収穫7日前まで				4回以内 (植付時の 土壌混和は 1回以内、植付後 は3回以内)
	テントウムシダマシ	2000～4000倍						
かんしょ	アブラムシ類	2000～6000倍		収穫前日まで				3回以内
		4000倍		収穫7日前まで				
やまのいも	アブラムシ類	4000倍		収穫7日前まで		5回以内		5回以内
やまのいも (種芋栽培)	アサミウマ類 ナガイモコガ		種芋掘取り 7日前まで					
てんさい	テンサイビロハムシ テンサイモグリナハエ	200倍	ペーパーポット 1冊当り 1L(3L/m ²)	定植前		苗床灌注	3回以内 (苗床灌注は 1回以内)	
だいこん	コナガ アオムシ キスジノミハムシ ダイコンサルハムシ	2000倍	100～300L/10a	収穫14日前まで	1回	散布	1回	
	カブラハバチ アブラムシ類	2000～4000倍						
はつかだいこん	アブラムシ類							
かぶ	キスジノミハムシ アブラムシ類	2000倍		収穫21日前まで				
	カブラハバチ	4000倍						

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数	
わさびだいこん	コナガ	2000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	1 回	散布	1 回	
クレス	アブラムシ類	4000 倍		収穫 3 日 前まで	3 回以内		3 回以内	
はくさい	コナガ アオムシ	1000～ 2000 倍		収穫 14 日 前まで	3 回以内		4 回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計 3 回以内)	
	アブラムシ類	2000～ 4000 倍						
	カブラハバチ	4000 倍						
キャベツ	コナガ アオムシ	1000～ 2000 倍		収穫 7 日 前まで	5 回以内		6 回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計 5 回以内)	
	アブラムシ類 アザミウマ類	2000～ 4000 倍						
メキャベツ	アブラムシ類	2000 倍		収穫 14 日 前まで	1 回		1 回	
こまつな	アブラムシ類 キスジノミハムシ カブラハバチ	4000 倍						2 回以内 (粒剤の株元散布 は 1 回以内、 散布は 1 回以内)
チンゲンサイ								
なばな類	アブラムシ類 キスジノミハムシ	1 回						
カリフラワー	コナガ アオムシ アブラムシ類	2000 倍		収穫 7 日 前まで	3 回以内		4 回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計 3 回以内)	
ブロッコリー	コナガ アオムシ アブラムシ類 アザミウマ類			収穫 14 日 前まで				
	茎ブロッコリー		アブラムシ類	収穫前日 まで		2 回以内		
非結球メキャベツ	アブラムシ類		2000 倍	収穫 7 日 前まで		2 回以内		2 回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数				
非結球あぶらな 科葉菜類 (こまつな、 チンゲンサイを除く)	アブラムシ類 キスジノミハムシ	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	1 回	散布	1 回				
なずな	アブラムシ類	8000 倍		収穫 3 日 前まで	2 回以内			2 回以内			
しゅんぎく								4 回以内 (粒剤の株元散布 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)			
レタス	アブラムシ類 ナモグリハエ	2000～ 4000 倍		収穫前日 まで	3 回以内			2 回以内 (粒剤の株元散布 は 1 回以内、 散布は 1 回以内)			
非結球レタス	アブラムシ類 アザミウマ類 ナモグリハエ	4000 倍		収穫 7 日 前まで	1 回			2 回以内			
くきちしゃ	アブラムシ類							8000 倍	2 回以内	1 回	2 回以内
ははこぐさ											1 回
ふき	コナジラミ類	3000 倍		収穫 14 日 前まで	2 回以内			3 回以内 (粒剤の株元散布 は 1 回以内、 散布は 2 回以内)			
たまねぎ	アザミウマ類	2000 倍		収穫 7 日 前まで	3 回以内			3 回以内			
ねぎ								3 回以内 (は種時の 土壌混和は 1 回以内、植付時 の土壌混和及び 定植当日までの 株元散布は 合計 1 回以内)			
にら								3 回以内			
アスパラガス	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類 ジョウホシクビナガハムシ	4000 倍		収穫前日 まで	2 回以内			2 回以内			
わけぎ	アザミウマ類	2000 倍	収穫 7 日 前まで	3 回以内		4 回以内 (土壌混和は 1 回以内、 散布は 3 回以内)					

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプリドを含む農薬の総使用回数	
食用ゆり	アブラムシ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内	
らっきょう	アザミウマ類	2000 倍		収穫 14 日前まで	3 回以内		3 回以内	
にんじん	アブラムシ類 キアゲハ	4000 倍		収穫前日まで				
パセリ	アブラムシ類	8000 倍		収穫 3 日前まで	1 回		1 回	
セルリー		4000 倍		収穫 7 日前まで	2 回以内		2 回以内 (定植時の土壌混和は 1 回以内)	
みつば		8000 倍		収穫 7 日前まで 但し、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	1 回		1 回	
あしたば	アブラムシ類 キアゲハ	4000 倍		収穫前日まで	3 回以内		散布	3 回以内
トマト ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	2000 倍						4 回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1 回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
ピーマン		4000 倍						3 回以内 (粒剤の定植時までの処理は 1 回以内、散布、くん煙及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
なす	アブラムシ類 テントウムシダマシ類 コナジラミ類	2000 倍						3 回以内
	アザミウマ類	2000～ 4000 倍						
とうがらし類	アブラムシ類	8000 倍		2 回以内	2 回以内			

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチアリドを含む農薬の総使用回数	
しよくよう ほおずき	アブラムシ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	
きゅうり	コナジラミ類 ウリノメイガ	2000 倍		収穫前日 まで			3 回以内	5 回以内 (2%粒剤の定植時 の株元散布は 1 回以内、2%粒剤 の定植後の 株元散布は 1 回以内、散布、 くん煙及び 1%粒剤の 株元散布は 合計 3 回以内)
	アブラムシ類 アサミウマ類	2000～ 4000 倍						
かぼちゃ	ウリハムシ	4000 倍		2 回以内	3 回以内 (は種時または 定植時の 土壌混和は 合計 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計 2 回以内)			
	アブラムシ類	2000～ 4000 倍						
	カボチャミバエ	2000 倍						
うり類(漬物用)	アブラムシ類	2000～ 4000 倍		収穫 3 日 前まで	3 回以内		3 回以内	
すいか	アサミウマ類	2000 倍					4 回以内 (定植時の 土壌混和は 1 回以内、散布、 くん煙及び定植後 の株元散布は 合計 3 回以内)	
	コナジラミ類 ウリノメイガ	2000 倍						
メロン	アブラムシ類	8000 倍		収穫 14 日 前まで	2 回以内		3 回以内	
まくわうり		4000 倍					2 回以内	
にがうり		4000 倍					3 回以内	
ほうれんそう	アブラムシ類	8000 倍		収穫前日 まで	3 回以内		2 回以内	
オクラ		4000 倍						
さやいんげん		2000～ 4000 倍						
さやえんどう	アブラムシ類 コナジラミ類 アサミウマ類	4000 倍		収穫前日 まで	3 回以内		3 回以内	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数
えだまめ	アブラムシ類 コナジラミ類 アザミウマ類	4000 倍	100～ 300L/10a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (は種時または 定植時の 土壌混和は 合計 1 回以内、 散布は 3 回以内)
豆類 (未成熟、 ただし、 えだまめ、 さやいんげん、 さやえんどう を除く)							3 回以内
アマランサス (茎葉)	アブラムシ類	8000 倍	200～ 700L/10a	収穫 3 日 前まで	1 回		1 回
エンサイ		4000 倍		収穫 7 日 前まで	2 回以内		2 回以内
食用さくら(葉)	アザミウマ類		8000 倍	100～ 300L/10a	収穫 3 日 前まで		1 回
食用金魚草 食用プリムラ	アブラムシ類	2000 倍			100～ 300L/10a		収穫 14 日 前まで
食用ぎく	アブラムシ類 アザミウマ類		8000 倍	100～ 300L/10a			
食用カーネーション 食用エキサカム 食用せんいちこう 食用トレニア 食用パンジー 食用なでしこ	アブラムシ類	4000 倍			4000～ 8000 倍		収穫 14 日 前まで
モロヘイヤ	コナジラミ類		4000 倍	4000 倍			
つるな	アブラムシ類	2000 倍			2000 倍		収穫前日 まで
ふだんそう			アブラムシ類	4000 倍		200～ 700L/10a	
ヤングコーン	アブラムシ類	4000 倍			200～ 700L/10a		収穫 14 日 前まで
かき(葉)	アザミウマ類 カイガラムシ類 カキノハタムシガ カキノヒメコハイ カメムシ類		4000 倍	200～ 700L/10a		収穫 14 日 前まで	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタプリドを含む農薬の総使用回数
たらのき	センノカミキリ	2000倍	200～700L/10a	収穫45日前まで	3回以内	散布	3回以内
やまのいも(むかご)	アブラムシ類 アザミウマ類 ナガイモコガ	4000倍	100～300L/10a	収穫21日前まで			
なんてん(葉)	アザミウマ類			2回以内			
おけら	アブラムシ類			5回以内			
びやくし	アゲハ類						
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 カイガラムシ類 ゴマダラカミキリ成虫 コアオハナムグリ ケシクスイ類 アゲハ類 カメムシ類 ミカンハエ	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫14日前まで	3回以内	散布	3回以内
	コナジラミ類	4000倍	30～75L/10a				
	ゴマダラカミキリ	200～400倍					
りんご	アブラムシ類 キンモンハモグリガ キンモンホソガ シンクイムシ類 カメムシ類 リンコウタムシ	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	カイガラムシ類 モモチョッキリゾウムシ	4000倍					
	ケムシ類	2000倍					
なし	カメムシ類 アブラムシ類 シンクイムシ類 カイガラムシ類 カキノヒメヨコバイ	2000～4000倍	200～700L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
びわ	アブラムシ類 カキリムシ類	2000倍					
	カイガラムシ類						

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチアクトを含む農薬の総使用回数
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 アザミウマ類 カメムシ類	2000～ 4000 倍	200～ 700L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コスカシハ カイガラムシ類	2000 倍					
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 アザミウマ類 カメムシ類	4000 倍		収穫 3 日 前まで			
すもも	カイガラムシ類	2000 倍		収穫前日 まで			
	アブラムシ類	2000～ 4000 倍					
	シンクイムシ類	4000 倍					
うめ	アブラムシ類	2000～ 6000 倍		収穫前日 まで			
	ケシキスイ類 ノコトカリキリガ カイガラムシ類	2000 倍					
小粒核果類 (うめ、すももを 除く)	アブラムシ類	2000～ 4000 倍		収穫前日 まで			
おうとう	カイガラムシ類	2000 倍					
	カメムシ類 オウトウショウジョウハエ	2000～ 4000 倍					
	アザミウマ類	4000 倍					
いちご	アブラムシ類	2000～ 4000 倍	100～ 300L/10a	2 回以内	3 回以内 (粒剤の株元散布 及び土壌混和は 合計 1 回以内、 散布及びくん煙は 合計 2 回以内)		
	コナジラミ類 アザミウマ類	2000 倍					
ブルーベリー	オウトウショウジョウハエ	4000 倍	200～ 700L/10a	1 回		1 回	

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチプロトを含む農薬の総使用回数	
ぶどう	カイガラムシ類 アザミウマ類 フタテンヒメヨコバイ コガネムシ類成虫	2000～ 4000倍	200～ 700L/10a	収穫14日 前まで	3回以内	散布	3回以内	
	ツマグロアオカスミカメ トビイロトラガ	2000倍		収穫後 秋期				
	ブドウトラガミキリ							
かき	アザミウマ類 カイガラムシ類 カキノヘタムシガ カキノヒメヨコバイ カメムシ類	2000～ 4000倍		収穫前日 まで	2回以内			3回以内
	キウイフルーツ	カイガラムシ類 キウイヒメヨコバイ		2000～ 4000倍				
マンゴー	アザミウマ類 カイガラムシ類	2000倍		収穫35日 前まで	2回以内			2回以内
パッションフルーツ	カイガラムシ類			収穫30日 前まで				
あけび(果実) アセロラ	アブラムシ類	4000倍		収穫7日 前まで	3回以内			3回以内
いちじく	アザミウマ類 キボシカミキリ カイガラムシ類 イチジクヒトリモドキ	2000倍		収穫前日 まで				
かりん	ナシヒメシンクイ			収穫14日 前まで	2回以内			2回以内
ゴレンシ	カイガラムシ類	4000倍		収穫21日 前まで	3回以内			3回以内
さるなし	クワシロカイガラムシ	2000倍		収穫7日 前まで	2回以内			2回以内
なたね	アブラムシ類	4000倍		100～ 300L/10a	収穫45日 前まで			1回
くり	カイガラムシ類		200～ 700L/10a	収穫7日 前まで	3回以内	3回以内 (樹幹注入は 1回以内)		
	クリシギゾウムシ							
茶	チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ チャノホソガ	2000～ 4000倍	200～ 400L/10a	摘採14日 前まで	1回	1回		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセチアクトを含む農薬の総使用回数	
さんしょう(果実)	アブラムシ類 アザミウマ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫7日 前まで	1回	散布 樹幹散布	4回以内 (散布は1回以内、 樹幹散布は 3回以内)	
	ゴマダラガキリ幼虫	200倍	20L/10a		3回以内			
さんしょう(葉)	アブラムシ類 アザミウマ類	4000倍	100～ 300L/10a	収穫45日 前まで	6回以内	散布	6回以内	
あさつき	アザミウマ類	2000倍		収穫7日 前まで	3回以内		4回以内 (土壌混和は 1回以内、散布は 3回以内)	
オレガノ はっか	アブラムシ類	8000倍		収穫21日 前まで			2回以内	3回以内
タイム チャービル ティル(葉) バジル				収穫14日 前まで				
マジョラム				収穫21日 前まで				
レモンバーム				4000～ 8000倍	収穫14日 前まで		2回以内	
セージ					収穫7日 前まで			
しそ				4000倍	収穫14日 前まで		1回	
タラコン	収穫7日 前まで	1回						
ザーサイ	アブラムシ類 キスジ/ミハムシ	4000倍		25～ 180L/10a	収穫10日 前まで		2回以内	3回以内 (但し定植後は 2回以内)
たばこ	アブラムシ類	2000～ 4000倍	6000倍	収穫30日 前まで	3回以内	3回以内		
いね科牧草		6000倍		収穫90日 前まで				
まめ科牧草 飼料用とうもろこし	アザミウマ類	2000倍	100～ 300L/10a	発生初期	5回以内	5回以内 (粒剤は1回以内)		
ストック		アブラムシ類					2000～ 4000倍	
きく	アブラムシ類	4000倍	200～ 700L/10a	3回以内	5回以内	5回以内		
	アザミウマ類	2000倍						
花き類・観葉植物 (きく、ストックを除く)	アブラムシ類	4000倍	2000倍	5回以内	5回以内	5回以内		
アザミウマ類	2000倍							
つつじ類	ツツジグンバイ	2000倍	200～ 700L/10a	3回以内	5回以内	5回以内 (樹幹注入は 1回以内)		
まつ	アブラムシ類	4000倍						
やなぎ	ヤナキコハモグリ	2000～ 4000倍						

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モストップジン R スプレー(アセタミプリト 0.0050%・フェンプロパトリン 0.010%・チオファネートメチル 0.040%)】

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	アセタミプリトを 含む農薬の 総使用回数	フェンプロパトリンを 含む農薬の 総使用回数	チオファネートメチルを 含む農薬の 総使用回数
トマト	アブラムシ類 うどんこ病 葉かび病	原液	収穫前日 まで	3回以内	希釈せず そのまま 散布する	4回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1回以内、散布、 くん煙及び 定植後の 株元散布は 合計3回以内)	3回以内	6回以内 (種子への 処理は 1回以内、 は種後は 5回以内)
なす								
きゅうり	アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病							
ばら	黒星病							
ペチュニア	アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病					5回以内		
きく	アブラムシ類 ハダニ類 褐斑病		発生初期	5回以内		5回以内 (粒剤は1回以内)	6回以内	5回以内
花き類・観 葉植物 (きく、ばら、 ペチュニアを 除く)	アブラムシ類 ハダニ類					5回以内		

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【マイテミンスプレー(アセタミプリド 0.005%・ベンチオピラト 0.01%)】

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数	ベンチオピラトを含む農薬の総使用回数
トマト	うどんこ病 アブラムシ類	原液	収穫前日まで	3回以内	希釈せず そのまま 散布する	4回以内 (粒剤の定植時 までの処理は 1回以内、散布、 くん煙及び定植 後の株元散布は 合計3回以内)	3回以内
なす							
きゅうり							
きく			5回以内 (粒剤は1回以内)				
花き類・ 観葉植物 (きくを除く)			5回以内				
			発生初期				

【ダイレーグ粒剤(アセタミプリド 1%)】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセタミプリドを含む農薬の総使用回数
つつじ類	ゲンハイムシ類	6~12kg/10a	発生初期	5回以内	株元 散布	5回以内 (樹幹注入は 1回以内)
樹木類 (つつじ類 を除く)	アブラムシ類	12 kg/10a				
花き類・ 観葉植物		1g/株 (但し、15kg/10aまで)				5回以内

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

2. 使用上の注意事項

【モスピラン水溶剤(アセタミアリド' 20%)】

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤をなしに使用する場合、二十世紀、新水、幸水、豊水、新星、ゴールド二十世紀、新興、晩三吉、愛宕、新雪、今村秋、新世紀、豊月、ラ・フランス、ル・レクチュエ、ヤーリー、秋甘泉、新甘泉、なつひめ、あきづき、涼月、夏さやか、おさゴールド、王秋及び秋栄以外の品種には薬害について不明な点があるので使用を避けること。特に、長十郎、新高、八雲及び愛甘水に対しては葉に 黒変の薬害を生じるので使用しないこと。
- (3) ぶどうに対しては幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用は避け、新梢伸長期から落花期及び袋かけ以降に使用すること。
- (4) メロン、うり科作物に対しては葉縁に薬害を生じるおそれがあるので、使用濃度、使用量を厳守し、幼苗期や高温時の使用を避けること。
- (5) かんきつに対して希釈倍数 200~400 倍で使用する場合、薬液が葉にかかると薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
- (6) 蚕に対しては長期間毒性があるので、近くに桑園のある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (7) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせ調節すること。
- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (9) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【モスピラン粒剤(アセタミアリド' 2%)】

- (1) キャベツ、ブロッコリー、非結球あぶらな科葉菜類、セルリーに使用する場合は、薬害発生の恐れがあるので使用量を厳守し、根に直接ふれぬよう、施用後土壌とよく混和してから植え付けること。
- (2) キャベツ、ブロッコリー、はくさい、レタス、ピーマン、トマト、ミニトマトに使用する場合は、育苗期後半(定植前日~定植当日)に使用し、育苗期前半の使用は避けること。
- (3) かんきつに用いる場合は、今期に収穫見込みのない苗木に対して株元処理し、処理後は軽く散水すること。
なお、本剤を処理してから効果を発揮するまでにある程度期間を要するため、対象害虫の発生前に予防的に処理すること。
- (4) かぼちゃに対して、は種時に播溝土壌混和で使用する場合は、栽植密度に合わせ播溝に株当たり 1g に相当する量を均一に施用した後土壌混和すること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (7) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピランジェット(アセタミプリド 15%)】

- (1) 温室、ガラス室、ビニールハウス等防除しようとする室の戸や窓を閉め、室内の可燃物を除き、室の容積によって使用量を決め、必要に応じてくん煙箇所を数箇所に分けて配置し、煙が万べんなく行きわたるようにすること。
- (2) くん煙する場合は、添付の吊具又は所定の電気式点火・くん煙装置を使用してくん煙すること。吊具および電気式点火・くん煙装置は栽培作物の高さで吊り下げるか又は不燃性の台などの上に乗せて使用すること。なお、植物体、可燃物から離れた中央の安全な場所に設置すること。とくにビニール等の被覆材とは 60cm 以上離れた位置で使用すること。
- (3) 点火は以下のとおりに行なうこと。
 - ① 点火紙を用いる場合
同封の点火紙を吊具の所定の位置に正しく設置しその上に薬剤をのせてから点火紙に点火する。点火紙を薬剤の上に乗せて点火すると炎が出るので避けること。
発煙直後に万一炎が出た場合は吹き消すこと。
点火後発煙を確認したらくん煙室の外に出てそのまま放置すること。
 - ② 電気式点火・くん煙装置を使用する場合
装置は水などに濡れないように設置し、電源がオフになっていることを確認の上、薬剤を装置の所定の位置に正しく設置した後に通電すること。
点火後発煙したら電源のオフを確認し、くん煙室の外に出てそのまま放置すること。発煙直後に万一炎が出た場合においても、再びくん煙室に入らずに、そのまま放置すること。
 - ③ 点火後はくん煙終了時までくん煙室に入らないこと。
- (4) 室外で強い風が吹いている時は、煙が片寄ってしまい、均一な効果がでにくいので、使用しないこと。
- (5) 定植直後又は幼苗、軟弱徒長苗等には薬害を生ずるおそれがあるので使用はさけること。
- (6) 高温時のくん煙は薬害を生じる恐れがあるので、日中のくん煙は避け、夕方からくん煙し、翌朝開放すること。
- (7) 蚕に長期間毒性があるので、付近に桑園のあるところでは、使用しないこと。
- (8) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (9) 空袋、空缶は、圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理すること。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピランスプレー(アセタミプリド' 0.0050%)】

- (1) 本剤はそのまま散布できるよう調製してあるので、希釈せずに散布すること。
- (2) 蚕に影響があるので、注意して使用すること。
- (3) まきむらのないよう均一に散布すること。
- (4) 重複散布や多量散布は薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (5) 花卉類に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、事前に作物の目立たない部分を選定して試用し、薬害の有無を十分確認してから全体に使用すること。

【イールダーSG(アセタミプリド' 30%)】

- (1) 本剤をコガネムシ類幼虫に対して土壌注入処理をする場合には、農薬を高圧噴射できるインジェクターを使用すること。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (3) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【モスピラン液剤(アセタミプリド' 2%)】

- (1) 花卉類に属する作物に使用する場合、誤って高い濃度で使用すると薬害が生じるおそれがあるので、希釈倍数を厳守すること。
- (2) 花卉類に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、事前に作物の目立たない部分を選定して試用し、薬害の有無を十分確認してから全体に使用すること。
- (3) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (4) 本剤の使用に当たっては、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【マツグリーン液剤(アセタミプリド' 20%)】

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので、桑に付着する恐れがある地域では使用しないこと。
- (2) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- (3) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けること。
- (4) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等 関係機関の指導を受けることが望ましい。

【モスピランSL液剤(アセタミプリド' 18%)】

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- (3) てんさいに使用する場合、定植初期の幼苗に軽微な薬害を生じる場合があるので、使用濃度、および量を守って処理すること。
- (4) 蚕に対しては長期間毒性があるので、近くに桑園のある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (6) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意事項を守ること。
 - 1) 散布は散布機種 of 散布基準に従って実施すること。
 - 2) 散布に当っては散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 - 3) 散布中、薬液の漏れのないように機体の散布配管その他散布装置の十分な点検を行うこと。
- (7) ばれいしよに対して希釈倍数 1000 倍で使用する場合は、少量散布に適合したノズルを装着した乗用型 of 速度連動式地上液剤散布装置を使用すること。

【マツグリーン液剤 2(アセタミプリド 2%)】

- (1) 蚕に対して長期間毒性があるので、桑に付着する恐れがある地域では使用しないこと。
- (2) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。
- (3) 本剤を無人ヘリコプターによる散布に使用する場合は次の注意を守ること。
 1. 無人ヘリコプターによる散布にあたっては、散布機種に適合した散布装置を使用すること。
 2. 散布中、薬液が漏れないように機体の散布用配管、その他散布装置の充分な点検を行うこと。
 3. 少量散布の場合は特定の農薬(混合可能が確認されているもの)を除いて原則として他の農薬との混用は行わないこと。
 4. 散布薬液の飛散が可能な区域内の諸物件に十分留意すること。
 5. 作業後は次の項目を守ること。
 - a) 使用後の空の容器は放置せず、安全な場所に廃棄すること。
 - b) 使用残りの薬液は必ず安全な場所に責任者を決めて保管すること。
 - c) 機体の散布装置は充分洗浄し、薬液タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理すること。
- (4) 本剤を樹幹注入に使用する場合は次の注意を守ること。
 1. 樹幹注入は春季～秋季に行い、雨天の日や落葉期以降の処理は避けること。
 2. 薬剤注入孔は樹幹下部の周囲に分散させ、大きな節や横枝直下は避けること。
 3. 薬剤注入孔は、ドリルなどを用いて直径 8mm 程度、深さ 3cm 程度の孔を、樹幹下部に斜め下方約 45 度に傾けてあけること。
 4. 1 つの孔に対する注入量は 200ml とし、薬液を注入ノズル付きの 200ml アンブル(注入容器)に充填して使用すること。
 5. 薬剤注入量は樹幹の胸高直径に従って増減して調製し、使い切ること。
 6. 薬剤注入孔の数は、予定した使用液量を 200ml で割った数とすること。
 7. 注入孔をあけたら直ちに注入容器先端部を速やかに孔にねじ込み、薬液が漏れないように注入すること。
その際、自然圧で薬液を注入するため、目打ち等で容器の底に穴をあけること。
- (5) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所、林業関係機関等関係機関の指導を受けること。
- (6) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所、林業関係機関等の指導を受けることが望ましい。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

【モスピラン・トップジンMスプレー(アセタミプリド 0.0050%・チオファネートメチル 0.040%)】

- (1) 使用に当たっては容器を良く振ること。
- (2) 本剤はそのまま散布できるよう調製してあるので、希釈せずに散布すること。
- (3) まきむらのないよう均一に散布すること。
- (4) きゅうりに使用する場合、幼苗、軟弱徒長苗など、および高温・多湿時には葉縁に薬害を生じる恐れがあるので注意すること。
- (5) 蚕に影響があるので、注意して使用すること。
- (6) 重複散布や多量散布は薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (7) 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し効果の劣った事例があるので、過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合わせて輪番で使用すること。
- (8) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【モスピランワン粒剤(アセタミプリド 1%)】

- (1) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにすること。
- (3) 花き類・観葉植物に使用する場合は、1回の散布における10a当りの使用量が15kgを超えないこと。
- (4) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【モスピラン顆粒水溶剤(アセタミプリド 20%)】

- (1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- (2) 本剤をなしに使用する場合は、二十世紀、新水、幸水、豊水、新星、ゴールド二十世紀、新興、晩三吉、愛宕、新雪、今村秋、新世紀、豊月、ラ・フランス、ル・レクチエ、ヤーリー、秋甘泉、新甘泉、なつひめ、あきづき、涼月、夏さやか、おさゴールド、王秋及び秋栄以外の品種には薬害について不明な点があるので使用を避けること。特に、長十郎、新高、八雲及び愛甘水に対しては葉に黒変の薬害を生じるので使用しないこと。
- (3) ぶどうに対しては幼果期から果粒肥大期の散布は果粉の溶脱のおそれがあるので使用は避け、新梢伸長期から落花期及び袋かけ以降に使用すること。
- (4) メロン、うり科作物に対しては葉縁に薬害を生じるおそれがあるので、使用濃度、使用量を厳守し、幼苗期や高温時の使用を避けること。
- (5) かんきつに対して希釈倍数 200~400 倍で使用する場合は、薬液が葉にかかる薬害を生ずるおそれがあるので、かからないように十分注意して散布すること。
- (6) 蚕に対しては長期間毒性があるので、近くに桑園のある場合には絶対に桑葉にかからないようにすること。
- (7) 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節すること。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

- (8) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (9) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【モストップジン R スプレー(アセタミプリト 0.0050%・フェンプロパトリン 0.010%・チオファネートメチル 0.040%)】

- (1) 使用に当たっては容器を良く振ること。
- (2) 本剤はそのまま散布できるよう調製してあるので、希釈せずに散布すること。
- (3) まきむらのないように均一に散布すること。
- (4) きゅうりに使用する場合、幼苗、軟弱徒長苗など、および高温・多湿時には葉縁に薬害を生じるおそれがあるので注意すること。
- (5) 蚕に影響があるので、注意して使用すること
- (6) ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
- (7) 又、養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチへの危害防止に努めること。
- (8) 重複散布や多量散布は薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (9) 本剤の連続使用によって薬剤耐性菌が出現し効果の劣った事例があるので、過度の連用はさけ、なるべく作用性の異なる他の薬剤と組み合わせて輪番で使用すること。
- (10) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【マイテンスプレー(アセタミプリト 0.005%・ベンチオヒラト 0.01%)】

- (11) 使用に当たっては容器を良く振ること。
- (12) 本剤はそのまま散布できるよう調製してあるので、希釈せずに散布すること。
- (13) まきむらのないように均一に散布すること。
- (14) 蚕に対して影響があるので注意して使用すること。
- (15) 重複散布や多量散布は薬害を生ずるおそれがあるので注意すること。
- (16) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【ダイリーグ粒剤(アセタミプリト 1%)】

- (1) 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- (2) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにすること。
- (3) 花き類・観葉植物に使用する場合、幼苗期の使用では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (4) 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

本資料に掲載された情報に係る権利及び内容の責任は日本曹達株式会社にある。

3. 水産動植物に有毒な農薬については、その旨

【モスピラン水溶剤(アセタミプリド 20%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピラン粒剤(アセタミプリド 2%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピランジェット(アセタミプリド 15%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピランスプレー(アセタミプリド 0.0050%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【イールダーSG(アセタミプリド 30%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピラン液剤(アセタミプリド 2%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【マツグリーン液剤(アセタミプリド 20%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピランSL液剤(アセタミプリド 18%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【マツグリーン液剤 2(アセタミプリド 2%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピラン・トップジンMスプレー(アセタミプリド 0.0050%・チオファネートメチル 0.040%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピランワン粒剤(アセタミプリド 1%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モスピラン顆粒水溶剤(アセタミプリド 20%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【モストップジン R スプレー(アセタミプリド 0.0050%・フェンプロパトリン 0.010%・チオファネートメチル 0.040%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【マイテミスプレー(アセタミプリド 0.005%・ベンチオピラト 0.01%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。

【ダイリーグ粒剤(アセタミプリド 1%)】

この登録に係る使用方法では該当がない。